株式会社エムシー緑化

製品要覧 2024 目次

- 薬剤名をクリックすると、その項目・薬剤の解説ページにジャンプします。
- 薬剤ページのページ番号をクリックすると目次ページにジャンプします。

(1) エムシー緑化製品要覧について
(2) 記載事項の見方
(3) 法律に基づく農薬の情報提供について
(4) 農薬の使用にあたって

ー家庭園芸用薬品ー

殺虫剤（農薬）

アプロード®フロアブル
カルホス® 粉剤
コロマイト® 乳剤
スターガード®粒剤
トレボン®乳剤
トレボン®粉剤DL
MIC®ナメクジ退治
ネキリエース®K

殺菌剤（農薬）

トップジン®M水和剤
ネビジン®粉剤

殺虫殺菌剤（農薬）

アタックワン® AL
サンヨール®
サンヨール® 液剤AL
サンヨール®・トレボン®スプレー

除草剤（農薬）

クサクリア®
クサレンジャー®
フレピオン®シャワー

展着剤（農薬）

グラミン®S

その他製品

ムカデ退治 粉剤

ー緑地管理用薬品ー

（業務用につき一般向け小売はしておりません）

殺虫剤（農薬）

ウッドスター®

カルホス® 乳剤

サニーフィールド® MC

テラ®フロアブル

トレボン® 乳剤

マツガード®

マツガードクイック®

マツガードフラッシュ®

除草剤（農薬）

MIC® エンドタールK液剤

クサクリーン® 液剤

グラッチェ® 顆粒水和剤

フレノック® 液剤30

フレノック® 粒剤10

フレピオン® L液剤

殺菌剤（農薬）

ガイア®顆粒水和剤

サンブレイク®液剤
（肥料入り農薬）

タチガレン®液剤

パッチコロン® 水和剤

ユニゾン® 水和剤

展着剤（農薬）

グラミン® S

肥料

サンブレイク® 液剤
（農薬入り複合肥料）

ー そ の 他 製 品 ー

薬剤注入器

ウッドスター®薬剤注入器セット

ハチ駆除剤

ハチダウン®

ハチ駆除用スプレー竿

ハチロー® FH

エムシー緑化製品要覧について

　この要覧は、（株）エムシー緑化が取扱っている製品について、その概要を記載しています。記載内容は2024年1月1日現在のものを基準としています。農薬登録を含む記載内容が変更になっている場合もありますので、購入・使用される際には必ずラベルをよく読み確認してください。農薬の場合は農薬取締法及び関連法令を遵守し、適切な取扱をしてください。なお、品質保証期間を示す最終有効年月は製品に記載されています。

　また、弊社ホームページでも製品情報を記載しておりますので、ご利用ください。
弊社ホームページのアドレスは下記の通りです。

https://www.mc-ryokka.com

●記載事項の見方

タイトル部分は以下に準じて記載しています。

農林水産省登録第○○○○号

商品名

殺菌剤

第 18210 号

ネビジン®粉剤

種類名：フルスルファミド粉剤

特長	●幅広いアブラナ科作物の根こぶ病に安定した効果を示します。 ●残効性に優れ長期間効果が持続します。 ●毎年の連用により、効果がより一層安定します。

【有効成分】フルスルファミド ……0.3%

【性　状】淡黄色粉末　45 μ m 以下　　【毒　性】普通物※　　【危険物】－

【有効年限・包装】5 年・1kg × 20

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

ネビジンは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

【毒　性】：毒劇物分類
毒物及び劇物取締法に定める分類
毒物及び劇物指定令による
毒　物：医薬用外毒物
劇　物：医薬用外劇物
普通物：「毒物及び劇物取締法」に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す

【危険物】：危険物分類
消防法に定める危険物
例 －：該当せず
例 2石・Ⅲ：第4類第2石油類・危険物等級Ⅲ

PRTR:PRTR法
1種：第1種指定化学物質の略

●使用時期・使用回数

農薬残留基準、農薬登録保留基準および使用適期に基づき使用時期、使用回数が定められています。

●法律に基づく農薬の情報提供について

「毒物及び劇物取締法」（以下、毒劇法）に基づき、毒物劇物営業者が毒物及び劇物を販売又は授与する際に、譲渡人に対し「性状及び取扱いに関する情報」（以下、SDS）を提供する事が義務付けられています。また、「特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律」（以下、化管法）に基づき、化管法対象化合物を含有する製品を他の事業者に販売又は譲渡する際には、SDSを提供する事が義務付けられています。

なお、紙面の都合もあり、「取扱い及び保管上の注意」、「漏出時の措置」、「廃棄上の注意」、「輸送上の注意」及び「火災時の措置」につきましては、本書の「農薬の使用にあたって」を参照願います。

農薬の使用にあたって

農薬は正しく使いましょう

－10のチェックポイント－

1. 農薬はラベルや説明書をよく読み、正しく使いましょう。
   （記載以外には使用しない）
2. 体調がすぐれないときや、妊娠中の人は散布作業を避けましょう。
3. 防除機具は故障や不備のないよう事前に点検・整備しましょう。
4. 農薬を使うときは、マスク・手袋など防護具を着用しましょう。
5. 散布は風の少ない、朝夕の涼しいときに行ないましょう。
6. 風向きや作物の高さなどを考えて、農薬が体にかからないよう散布しましょう。
7. 環境保全のため、農薬が圃場の外に飛散・流出しないよう注意を払いましょう。
8. 農薬の空容器は圃場などに放置せず、正しく処分しましょう。
9. 農薬は食品と区別し、カギをかけて保管しましょう。
   （小児の手の届く所には置かない）
10. 作業後は、うがい・入浴をして、衣服を着替えましょう。

●安全使用のための知識

農薬の表示事項

農薬の容器に添付されるラベルには、その農薬を効果的に、かつ安全に使うための必要不可欠な事項が表示されている。

登録された農薬であることを示す登録番号をはじめ、成分、毒物劇物取締法に係る毒性の表示、消防法に係る危険物の表示、適用農作物名又は範囲、適用病害虫・雑草の名前、使用量、希釈倍数、散布液量、使用時期、総使用回数、使用方法、使用上の注意、最終有効年月など、関連する法律に基づく表示が義務付けられている。新しい農薬を使うときはもちろん、使い慣れた農薬でも、表示事項に変更がある場合があるので、使用前に必ずラベルを読む習慣をつける。特に注意しなければならないことには、注意喚起マークが表示されている。

注意喚起マーク(絵表示)具体例

注意・警告マーク
注意事項のタイトルの前に表示　【例】 効果・薬害等の注意　安全使用上の注意

行為の強制マーク（必ずすること）			行為の禁止マーク（してはいけないこと）		
マークの意味	マークと注意事項		マークの意味	マークと注意事項	
マスク着用		散布時は、農薬用マスク(保護マスク)を着用する。	河川流出禁止(魚介類注意)		魚毒性等…水産動植物(魚類)に強い影響あり。河川、湖沼、海域等に飛散・流入しないよう注意。養殖池周辺での使用はさける。
保護メガネ着用		散布液調製時は、保護メガネを着用し、薬液が眼に入らぬよう注意する。	桑園付近使用禁止(カイコ注意)		蚕に長期間毒性があるので、付近に桑園がある所では使用しない。
不浸透性手袋着用		散布時は、不浸透性手袋を着用する。	かぶれる人使用禁止(カブレ注意)	カブレ	かぶれやすい人は作業しない。施用した作物などに触れない。
不浸透性防除衣着用		散布時は、不浸透性保護衣を着用する。	ハチ巣箱への散布禁止(ミツバチ注意)		ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しない。
厳重保管		必ず農薬保管庫(箱)に入れ、カギをかけて保管する。	施設内使用禁止		ハウス内や噴霧のこもりやすい場所では使わない。
その他		その他、行為の強制を喚起する事項の場合	飲用禁止		飲めませんまたは飲用禁止。 ＊飲料用包装と酷似しているものにのみ記載する。

※この表示方法は順次製品のラベルに反映されます。

使用上の諸注意

●万一身体に異常を感じた時は医師の診断を受ける

農薬散布をした後、身体に異常を感じたら、直ちに使用した農薬の容器を持参して、医師の診断を受ける。中毒については、中毒110番（日本中毒情報センター）が情報を伝えてくれるので、医師から問い合わせてもらうと良い。

中毒１１０番（日本中毒情報センター）

中毒１１０番	一般市民専用電話 （無料）	医療機関専用電話 （１件につき2,000円）
大　阪 （365日、24時間対応）	072-727-2499	072-726-9923
つくば （365日、9～21時対応）	029-852-9999	029-851-9999

●立て札、見張り

子供や通行人が近寄るおそれのある公園、街路樹等の防除では、散布作業中や、薬液が乾くまでの間は、見張り役を置いたり、立て札・立て看板等の表示を行い、散布区域内に関係者以外の者が入らないよう最大限の配慮を行う必要がある。
また、住宅地付近では、窓、洗濯物の有無を確認し、窓閉め、洗濯物の取り込みを依頼する。

農薬相談室
（略称「農薬でんわ相談」）
公益社団法人 緑の安全推進協会内

電話番号　03-5209-2512
開業時間　午前９時から午後５時まで（土、日、祝祭日及び年末年始は休み）
　　開業時間以外は留守番電話で伺います。

住　　所　〒101-0047　東京都千代田区内神田3-3-4　全農薬ビル５階
ホームページ　http://www.midori-kyokai.com

農薬について知りたいこと、困っていることなど、何でもご相談ください。
正確な、新しい情報をもとに、わかりやすく親切をモットーにお答えします。
（個別の農薬については、「製造または販売会社」にお問い合わせください）

2023年1月1日現在

登録番号　第　19923　号

アプロード®フロアブル

特長：
●幼虫の脱皮を阻害し、齢末期～脱皮時に死亡させる昆虫成長制御剤です。
●多くの天敵に対して影響が少なく、天敵の保護活用場面にも適した薬剤です。
●フロアブル製剤のため薬剤の秤量がしやすく、作物に対する汚れも少ない。

アプロードは日本農薬(株)の登録商標です。

有効成分	ブプロフェジン（化管法第1種）・・・20.0%	包装	100mL×10×6
その他化管法該当成分	―		
性状	類白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ブプロフェジンを含む農薬の総使用回数
稲	ツマグロヨコバイ幼虫 ウンカ類幼虫	1000倍	60～150 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	4回以内 （小包装投入は1回以内）
	ツマグロヨコバイ幼虫 ウンカ類幼虫	300倍	25L/10a				
みかん	カイガラムシ類幼虫 ミカントゲコナジラミ若齢幼虫	1000倍	200～700 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
かんきつ（みかんを除く）	カイガラムシ類幼虫 ミカントゲコナジラミ若齢幼虫	1000倍	200～700 L/10a	収穫45日前まで	3回以内	散布	3回以内
りんご	カイガラムシ類幼虫	1000～1500倍	200～700 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内
なし	カイガラムシ類幼虫	1000倍	200～700 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内
もも	カイガラムシ類幼虫	1000倍	200～700 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
ネクタリン	カイガラムシ類幼虫	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
すもも	カイガラムシ類幼虫	1000倍	200～700 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
あんず	カイガラムシ類幼虫	1000倍	200～700 L/10a	収穫30日前まで	1回	散布	1回
うめ	カイガラムシ類幼虫	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ブプロフェジンを含む農薬の総使用回数
くるみ	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
おうとう	カイガラムシ類幼虫	1000～1500 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
ぶどう	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	フタテンヒメヨコバイ幼虫	3000 倍					
いちじく	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
パッションフルーツ	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
マンゴー	カイガラムシ類幼虫 チャノホコリダニ	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
ねぎ	ネダニ類	500～1000 倍	1～3L/㎡	収穫 14 日前まで	1 回	株元灌注	1 回
にら	ネダニ類	500～1000 倍	1～3L/㎡	収穫 14 日前まで	1 回	株元灌注	1 回
あさつき(伏せ込み栽培)	ネダニ類	500 倍	3L/㎡	植付時	1 回	株元灌注	1 回
らっきょう	ネダニ類	250 倍	－	植付前	1 回	30 分間種球浸漬	4 回以内 (種球への処理は 1 回以内、株元灌注は 3 回以内)
		500 倍	1～3L/㎡	収穫 21 日前まで	3 回以内	株元灌注	
茶	クワシロカイガラムシ若齢幼虫	1000 倍	1000L/10a	摘採 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
樹木類	カイガラムシ類幼虫	1000 倍	200～700 L/10a	－	6 回以内	散布	6 回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
(2) なしの萌芽期から新梢伸長期に使用する場合、薬液が乾きにくい条件下では、葉に褐色斑点等の薬害が生じるおそれがあるので、注意して使用する。但し、施設栽培ではこの時期での使用をさける。
(3) にらに対して、年間複数回収穫を行う作型において本剤を連続で使用すると薬害を生じる場合があるので注意する。
(4) 葉ねぎに対して、本剤を使用すると薬害を生じる場合があるので、事前に薬害の有無を確認してから使用する。
(5) 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数 300 倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用する。
(6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(7) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　13290　号

カルホス®粉剤

特長：
●ネキリムシ類・コガネムシ類幼虫などの土壌害虫を的確に防除します。
●大豆などの害虫に有効です。
●接触毒により土壌害虫に有効でそのまま使えます。

カルホスは保土谷UPL(株)の登録商標です。

有効成分	イソキサチオン（化管法第1種）・・・2.0%	包装	1kg×20
その他化管法該当成分	―		
性状	類白色粉末　45μm以下	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
だいこん	タネバエ ネキリムシ類	6kg/10a	は種時	1回	土壌表面散布土壌混和処理	1回
はつかだいこん	タネバエ ネキリムシ類	6kg/10a	は種時	1回	土壌表面散布土壌混和処理	1回
はくさい	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時又は植付時	1回	土壌表面散布土壌混和処理	1回
ｷｬﾍﾞﾂ	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	1回	土壌表面散布土壌混和処理	1回
ねぎ	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌混和処理	4回以内 (は種時は1回以内、植付時は1回以内、植付後は2回以内)
わけぎ	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌混和処理	2回以内
あさつき	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌混和処理	2回以内
レタス	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌混和処理	2回以内
非結球ﾚﾀｽ	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌混和処理	2回以内
トマト	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌混和処理	2回以内
ミニトマト	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	2回以内	土壌表面散布土壌混和処理	2回以内

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
なす	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	2 回以内	土壌表面散布土壌混和処理	2 回以内
きゅうり	ネキリムシ類	6kg/10a	は種時 又は植付時	1 回	土壌表面散布土壌混和処理	1 回
	タネバエ	4～6 kg/10a	は種時			
ほうれんそう	タネバエ	4～6 kg/10a	は種時	1 回	播溝土壌混和	1 回
なばな類 （オータムポエムを除く）	ヨトウムシ類	6kg/10a	は種時	1 回	土壌表面散布土壌混和処理	1 回
オータムポエム	ヨトウムシ類	6kg/10a	は種時	1 回	土壌表面散布土壌混和処理	1 回
	ネキリムシ類		定植時		土壌表面散布	
だいず	タネバエ	4～6 kg/10a	は種時	1 回	作条施用土壌混和	2 回以内
	ネキリムシ類		は種時 又は定植時	2 回以内		
	ネキリムシ類	4kg/10a	は種時 ～本葉 2 葉期		土壌表面散布	
えだまめ	タネバエ ネキリムシ類	4～6 kg/10a	は種時	1 回	作条施用土壌混和	5 回以内 （粉剤及び粉粒剤の は種時の処理は 合計 1 回以内、 粉剤及び粉粒剤の定植時 は合計 1 回以内、 粉剤の土壌表面散布は 1 回以内、 粒剤の土壌表面株元処理 は 2 回以内）
	ネキリムシ類		定植時			
	ネキリムシ類	4kg/10a	は種時 ～本葉 2 葉期		土壌表面散布	
豆類 （種実、ただし、だいずを除く）	タネバエ ネキリムシ類	4～6 kg/10a	は種時	1 回	作条施用土壌混和	1 回
さやえんどう	コガネムシ類幼虫	9kg/10a	は種時	1 回	作条施用土壌混和	1 回
さやいんげん	タネバエ	6kg/10a	は種時	1 回	作条施用土壌混和	1 回
実えんどう	コガネムシ類幼虫	9kg/10a	は種時	1 回	作条施用土壌混和	1 回
いちご（仮植床）	コガネムシ類幼虫	9kg/10a	植付時	1 回	土壌表面散布土壌混和処理	1 回
うど	センノカミキリ	6kg/10a	成虫飛来初期 ～盛期	5 回以内	散布	5 回以内
ほうきぎ	ネキリムシ類	6kg/10a	定植時	1 回	株元散布	1 回

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
たばこ	ネキリムシ類	6～9 kg/10a	植付前	1 回	土壌表面散布土壌混和処理	2 回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
(2) 本剤は地表面全面に均一に散布し、表層土壌とよく混和すること。作条処理の場合は、は種又は植付ける作条になるべく幅広く散布し、土壌とよく混和すること。植穴(播穴) 処理はさけること。
(3) DCPA 剤との同時施用及び 10 日以内の近接散布は薬害を生ずるおそれがあるのでさけること。
(4) いちごに使用する場合は、仮植床で使用し、床面全面に均一に散布して表土とよく混和すること。
(5) うどのセンノカミキリの防除に使用する場合、地際部によくかかるよう散布すること。
(6) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
(7) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
(8) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
(9) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――

(1) 本剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びPAM 製剤が有効であると報告されている。
(2) 散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
(2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　18406　号

コロマイト®乳剤

特長：
●微生物から生まれた殺ダニ剤で、有機栽培でも使えます。
●減農薬栽培では農薬としてカウントされません。（一部の県を除く）
●速効性に優れ、ダニの卵～成虫まで効果があります。

コロマイトは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ミルベメクチン・・・1.0%	包装	30mL×10×4
その他化管法該当成分	トリメチルベンゼン(化管法第1 種)・・・11% ポリ(オキシエチレン)=アルキルフェニルエーテル（アルキル基の炭素数が9 のものに限る。)(化管法第1 種)・・・2.0%		
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	2石-III （指定数量1000L（非水溶性））

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
りんご	－	ハダニ類 キンモンホソガ リンゴサビダニ ユキヤナギアブラムシ	1000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
もも	－	ハダニ類 モモサビダニ	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	1回	散布	1回
ネクタリン	－	ハダニ類 モモサビダニ	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	1回	散布	1回
小粒核果類	－	ハダニ類	1000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
いちじく	－	ハダニ類	1000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
なし	－	ニセナシサビダニ	1000倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
		ハダニ類	1000～1500倍					
おうとう	－	ハダニ類	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	1回	散布	1回
パパイヤ	－	ハダニ類	1000倍	200～700 L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内
あずき	－	ハダニ類	1000～2000倍	100～150 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
だいず	－	ハダニ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
いんげんまめ	－	ハダニ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
豆類(未成熟)	－	ハダニ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
いちご(親株床)	－	ハダニ類	1000～1500 倍	100～300 L/10a	仮植前まで	2 回以内	散布	2 回以内
なす	－	ハダニ類 ハモグリバエ類 コナジラミ類 チャノホコリダニ	1500 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
トマト	－	ハモグリバエ類 トマトサビダニ コナジラミ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ミニトマト	－	ハモグリバエ類 トマトサビダニ コナジラミ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ピーマン	－	ハダニ類 コナジラミ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
		チャノホコリダニ	1000～1500 倍					
ししとう	－	コナジラミ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
甘長とうがらし	－	コナジラミ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
きゅうり	－	ハダニ類	1000～1500 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
		コナジラミ類 チャノホコリダニ	1000～1500 倍					
		ハモグリバエ類	1000 倍					
きゅうり(花)	－	ハダニ類 コナジラミ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
きゅうり(葉)	－	ハダニ類 コナジラミ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用へちま	－	ハダニ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
すいか	－	ハダニ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日まで	2 回以内	散布	2 回以内
メロン	－	ハダニ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
しそ科葉菜類（えごま(葉)、しそを除く）	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
えごま(葉)	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
しそ	－	サビダニ類 チャノホコリダニ ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
しそ(花穂)	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
モロヘイヤ	－	ハダニ類	1500 倍	300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
エンサイ	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
ふだんそう	－	ハダニ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
アスパラガス	－	ハダニ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さんしょう(葉)	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
なんてん(葉)	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
せんぶり	－	シクラメンホコリダニ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	1 回	散布	1 回
せり科葉菜類（みつば、コリアンダー(葉)、セルリー、せり(水耕栽培、あしたば)を除く）	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	1 回	散布	1 回
あしたば	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
みつば	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで ただし、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	2 回以内	散布	2 回以内
コリアンダー(葉)	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
セルリー	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
せり（水耕栽培）	ｶﾞﾗｽ室等の施設	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
かんしょ	－	ハダニ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さといも	－	ハダニ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さといも（葉柄）	－	ハダニ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
はすいも（葉柄）	－	ハダニ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
やまのいも	－	ハダニ類	1000 倍	100～500 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
やまのいも（むかご）	－	ハダニ類	1000 倍	100～500 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
みょうが（花穂）	－	ハダニ類	1000 倍	100～400 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布、但し花穂の発生期にはﾏﾙﾁﾌｨﾙﾑ被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する	2 回以内
みょうが（茎葉）	－	ハダニ類	1000 倍	100～400 L/10a	みょうが（花穂）の収穫前日まで但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用金魚草	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用なでしこ	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
しょくようほおずき	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
食用ミニバラ	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用プリムラ	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用カーネーション	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用エキザカム	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用せんにちこう	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用トレニア	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
食用パンジー	－	ハダニ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
きく(葉)	－	ハモグリバエ類 ハダニ類	1500 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
きく	－	ハモグリバエ類 ハダニ類	1500 倍	100～300 L/10a	－	2 回以内	散布	2 回以内
宿根かすみそう	－	ハダニ類	1000～1500 倍	100～200 L/10a	－	2 回以内	散布	2 回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(2) ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布すること。
(3) 本剤の連続散布は、ハダニ類の本剤に対する抵抗性を増加させるおそれがあるので、できるだけ年 1 回の散布とし、他の殺ダニ剤との輪番で使用すること。
(4) ハモグリバエ防除に使用する場合、老齢幼虫に対する効果が劣る場合があるので発生初期に時期を失せず、散布すること。
(5) 高温、乾燥時の散布は薬害のおそれがあるのでさけること。
(6) 展着剤によっては薬害を生ずるおそれがあるので、展着剤混用の際は事前にその適否を確認してから使用すること。
(7) りんごに使用する場合は、混用散布すると新しょう基部及び果そう部小葉が黄化する場合があるので注意すること。
(8) なしに使用する場合は、薬害のおそれがあるので 6 月以前には使用しないこと。
(9) 洋なし（ル・レクチェ）に使用する場合は、薬害のおそれがあるので袋かけ後に散布すること。
(10) なすに使用する場合は、効果を落さず薬害をさけるために、炎天下をさけなるべく夕方に散布すること。
(11) なすの水なす及び加茂なす（大芹川種）には薬害のおそれがあるので、使用しないこと。
(12) いちごに使用する場合は、親株床以外では薬害を生ずるおそれがあるので、親株床以外では使用しないこと。
(13) 施設栽培いちじくでは果実や葉に薬害を生じるおそれがあるので、散布した薬液が乾きにくい条件での散布をさけること。特に梅雨時など、日照が少なく果実が着色しにくい時期の使用をさけること。なお、使用に際しては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(14) せり（水耕栽培）に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
(15) 蚕に長期間毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。

(16) ミツバチに対して軽度の影響があるので、以下のことに注意すること。
1) ミツバチの巣箱に直接かからないようにすること。
2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
(17) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
(18) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。
(19) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

(1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
(2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので、散布液調製時には手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
(4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項ーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　22738　号

スターガード®粒剤

特長：	●有効成分が植物体内に速やかに浸透移行して、茎や葉に到達します。発見しづらく防除も難しい微小害虫や潜葉性害虫への対策に効果を発揮する殺虫剤です。 ●多くの野菜に登録があり、マイナー作物・地域特産作物にも広範囲に対応していますので、使用者のニーズに幅広く対応できます。「花き類」「つつじ類」にも使えますので、ガーデニングにも重宝する殺虫剤です。 ●人畜・魚類・鳥類に毒性が低い化合物です。また、作物への薬害も生じにくく、扱いやすい殺虫剤です。 ●アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類、コナガ・アオムシなど多くの害虫を、効率的に同時防除できます。 ●多くの登録作物で、「定植時」と「生育期」の処理時期が選べます。

スターガードは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・1.0%	包装	300g×30 800g×18
その他化管法該当成分	―		
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	―
※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。			

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
きゅうり	ハモグリバエ類 アザミウマ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	4回以内 （育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内）
	アブラムシ類 コナジラミ類	1～2g/株				
		1g/株	生育期 但し、収穫開始14日前まで		株元散布	
メロン	ハモグリバエ類 アザミウマ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 （育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内）
	アブラムシ類	1g/株				
	コナジラミ類	1～2g/株				
すいか	ワタアブラムシ	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	4回以内 （育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内）
			生育期 但し、収穫21日前まで		株元散布	
かぼちゃ	アブラムシ類 コナジラミ類	2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和	3回以内 （定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用
病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用方法</th><th>ジノテフランを含む
農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">なす</td><td>ハモグリバエ類
アザミウマ類
コナジラミ類</td><td>1～2g/株</td><td>定植時</td><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">植穴土壌混和</td><td rowspan="3">3 回以内
(育苗期の株元散布及び定植時の
土壌混和は合計 1 回以内、
散布及び定植後の株元散布は
合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アブラムシ類</td><td rowspan="2">1g/株</td><td>定植時</td></tr>
<tr><td>コナジラミ類</td><td>生育期
但し、収穫前
日まで</td><td>2 回以内</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td rowspan="3">トマト</td><td>ハモグリバエ類
コナジラミ類</td><td>1～2g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">植穴土壌混和</td><td rowspan="3">5 回以内
(培土混和及び灌注は合計 1 回以内、
育苗期の株元散布は 1 回以内、
定植時の土壌混和は 1 回以内、
散布及び定植後の株元散布は
合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アブラムシ類</td><td rowspan="2">1g/株</td></tr>
<tr><td>コナジラミ類</td><td>生育期
但し、収穫前
日まで</td><td>2 回以内</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ミニトマト</td><td>ハモグリバエ類
コナジラミ類</td><td>1～2g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">植穴土壌混和</td><td rowspan="3">5 回以内
(培土混和及び灌注は合計 1 回以内、
育苗期の株元散布は 1 回以内、
定植時の土壌混和は 1 回以内、
散布及び定植後の株元散布は
合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アブラムシ類</td><td rowspan="2">1g/株</td></tr>
<tr><td>コナジラミ類</td><td>生育期
但し、収穫前
日まで</td><td>2 回以内</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ピーマン</td><td>アザミウマ類</td><td>1～2g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="2">1 回</td><td rowspan="2">植穴土壌混和</td><td rowspan="3">3 回以内
(育苗期の株元散布及び定植時の
土壌混和は合計 1 回以内、
散布及び定植後の株元散布は
合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アブラムシ類</td><td rowspan="2">1g/株</td></tr>
<tr><td>生育期
但し、収穫前
日まで</td><td>2 回以内</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td rowspan="3">とうがらし類</td><td>アザミウマ類</td><td>1～2g/株</td><td rowspan="2">定植時</td><td rowspan="3">1 回</td><td>植穴土壌混和</td><td rowspan="3">4 回以内
(育苗期の株元散布及び定植時の
土壌混和は合計 1 回以内、
定植後の株元散布は 1 回以内、
散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">アブラムシ類</td><td rowspan="2">1g/株</td></tr>
<tr><td>生育期
但し、収穫開
始 14 日前ま
で</td><td>株元散布</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ｷｬﾍﾞﾂ</td><td>アブラムシ類</td><td>2g/株</td><td rowspan="3">定植時</td><td rowspan="3">1 回</td><td rowspan="3">植穴土壌混和</td><td rowspan="3">3 回以内
(育苗期の株元散布、定植時の
土壌混和及び灌注は合計 1 回以内、
散布及び無人航空機散布は
合計 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>アオムシ
コナガ</td><td>2～3g/株</td></tr>
<tr><td>ハイマダラノメイガ</td><td>3g/株</td></tr>
<tr><td rowspan="3">はくさい</td><td>アブラムシ類</td><td>2g/株</td><td rowspan="3">定植時</td><td rowspan="3">1 回</td><td rowspan="3">植穴土壌混和</td><td rowspan="3">3 回以内
(定植時の土壌混和及び灌注は
合計 1 回以内、
散布は 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>アオムシ
コナガ</td><td>2～3g/株</td></tr>
<tr><td>ハイマダラノメイガ</td><td>3g/株</td></tr>
</table>

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
レタス	アブラムシ類 ナモグリバエ	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	4 回以内 (は種前の培土混和は 1 回以内、 育苗期の株元散布、定植時の 土壌混和及び育苗トレイへの灌注は 合計 1 回以内、 散布は 2 回以内)
しそ	マデイラコナカイガラムシ	2g/株 (但し、1 ㎡当り 25g まで)	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (定植時の土壌混和は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
えだまめ	フタスジヒメハムシ	6g/㎡	は種時	1 回	播溝土壌混和	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、 散布、空中散布、無人航空機散布は 合計 2 回以内)
ブロッコリー	アブラムシ類 コナガ	2g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	3 回以内 (定植時の土壌混和及び灌注は 合計 1 回以内、 散布及び無人航空機散布は 合計 2 回以内)
ねぎ	アザミウマ類 ハモグリバエ類	6g/㎡	定植時	1 回	株元散布	4 回以内 (は種時の土壌混和、育苗トレイへの 灌注及び定植時の株元散布は 合計 1 回以内、 生育期の株元灌注は 1 回以内、 散布、無人航空機散布及び定植後の 株元散布は合計 2 回以内)
			生育期 但し、収穫 3 日前まで	2 回以内		
にんじん	ハモグリバエ類	9g/㎡	は種時	1 回	播溝土壌混和	4 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、 生育期の株元灌注は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
だいこん	アブラムシ類	6g/㎡	は種時	1 回	播溝土壌混和	5 回以内 (は種時の播溝土壌混和は 1 回以内、 は種時の全面土壌混和は 1 回以内、 粒剤の散布は 1 回以内、 水溶剤の散布、液剤の散布及び 無人航空機散布は合計 2 回以内)
	キスジノミハムシ	4～6g/㎡				
		9g/㎡			全面土壌混和	
		6g/㎡	生育期 但し、収穫 30 日前まで		散布	
チンゲンサイ	キスジノミハムシ	6g/㎡	定植時	1 回	土壌混和	3 回以内 (は種時及び定植時の土壌混和 は合計 1 回以内、 散布は 2 回以内)
	アブラムシ類 キスジノミハムシ		は種時		播溝土壌混和	
非結球あぶらな科葉菜類(チンゲンサイを除く)	アブラムシ類 キスジノミハムシ	6g/㎡	は種時	1 回	播溝土壌混和	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、 散布は 2 回以内)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
かぶ	アブラムシ類 キスジノミハムシ	6g/㎡	は種時	1 回	播溝土壌混和	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
ほうれんそう	アブラムシ類	6g/㎡	は種時	1 回	播溝土壌混和	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
だいず	フタスジヒメハムシ	6g/㎡	は種時	1 回	播溝土壌混和	3 回以内 (は種時の土壌混和は 1 回以内、 散布、空中散布、無人航空機散布は 合計 2 回以内)
しゅんぎく	ハモグリバエ類	9g/㎡	は種時	1 回	播溝土壌混和	3 回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は 合計 1 回以内、 散布は 2 回以内)
			定植時		植溝土壌混和	
いちご	ワタアブラムシ	0.5～1 g/株	定植時	1 回	植穴土壌混和	1 回
オクラ	アブラムシ類	9g/㎡	生育期 但し、収穫開始 14 日前まで	1 回	株元散布	3 回以内 (株元散布は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
さやえんどう	ハモグリバエ類	9g/㎡	生育期 但し、収穫開始 14 日前まで	1 回	株元散布	3 回以内 (株元散布は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
きく	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株 (但し、1 ㎡当り 30g まで)	定植時	1 回	植穴土壌混和	5 回以内 (土壌混和は 1 回以内)
	マメハモグリバエ	2g/株 (但し、1 ㎡当り 30g まで)				
	アブラムシ類	20g/㎡	生育期	5 回以内	株元散布	
ｶﾞｰﾍﾞﾗ	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株 (但し、1 ㎡当り 30g まで)	定植時	1 回	植穴土壌混和	5 回以内 (土壌混和は 1 回以内)
	マメハモグリバエ	2g/株 (但し、1 ㎡当り 30g まで)				
	アブラムシ類	20g/㎡	生育期	5 回以内	株元散布	
花き類・観葉植物(きく、ガーベラを除く)	アブラムシ類 コナジラミ類	1g/株 (但し、1 ㎡当り 30g まで)	定植時	1 回	植穴土壌混和	5 回以内 (土壌混和は 1 回以内)
	アブラムシ類	20g/㎡	生育期	5 回以内	株元散布	
つつじ類	ツツジグンバイ	6g/㎡	発生初期	5 回以内	株元散布	5 回以内

使用上の注意事項ーーー

2023年5月24日現在

登録番号　第　16758　号

トレボン®乳剤

特長：	●速効的で長い残効性を持っています。 ●野菜・果樹・花の多くの作物と害虫に使用できます。

トレボンは三井化学クロップ＆ライフソリューション株）の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	30mL×10×4
その他化管法該当成分	キシレン（化管法第1種）・・・33% エチルベンゼン（化管法第1種）・・・45%		
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	2石-III （指定数量1000L（非水溶性））

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	－	コブノメイガ	1000倍	60～150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
		ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ イナゴ類	1000～2000倍					
		カメムシ類 イネミズゾウムシ	2000倍					
		ウンカ類	300～600倍	25L/10a				
		ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	300倍					
		カメムシ類	600倍					
麦類	－	ヒメトビウンカ アブラムシ類	2000倍	60～150 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
きび	－	アカスジカスミカメ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
あわ	－	アワヨトウ アワノメイガ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
とうき	－	キアゲハ	1000倍	100～300 L/10a	幼虫発生期	6回以内	散布	6回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
とうもろこし	－	アワノメイガ アワヨトウ ツマジロクサヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
飼料用とうもろこし(子実)	－	アワノメイガ アワヨトウ ツマジロクサヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
かんきつ	－	コアオハナムグリ ケシキスイ類	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
		ミカンハモグリガ	1000～2000 倍					
		チャノキイロアザミウマ	2000 倍					
マンゴー	－	チャノキイロアザミウマ	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ブロッコリー	－	アオムシ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
キャベツ	－	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
はくさい	－	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
だいこん	－	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ねぎ	－	シロイチモジヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
レタス	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
すいか	－	アブラムシ類 コナジラミ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
きゅうり	－	アブラムシ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
メロン	－	アブラムシ類 コナジラミ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
にがうり	－	アブラムシ類 コナジラミ類 ヨトウムシ類 カメムシ類 ウリノメイガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
かぼちゃ	－	コナジラミ類 ウリハムシ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
なす	－	アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
		コナジラミ類	1000 倍					
トマト	－	コナジラミ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ピーマン	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
オクラ	－	アブラムシ類 カメムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
さやえんどう	－	シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
実えんどう	－	シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さやいんげん	－	ワタアブラムシ ウラナミシジミ マメノメイガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
えだまめ	－	マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ ツメクサガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
		ハスモンヨトウ	1000～2000 倍					
未成熟ささげ	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ばれいしょ	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
かんしょ	－	ナカジロシタバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
さといも	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも（葉柄）	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
やまのいも	－	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
やまのいも（むかご）	－	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
豆類（種実、ただし、だいず、あずきを除く）	－	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
だいず	－	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ ウコンノメイガ ツメクサガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
あずき	－	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ ノメイガ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
ほうきぎ	－	ホウキギツツミノガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
しょうが	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
葉しょうが	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
てんさい	－	ヨトウムシ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
せんきゅう	－	ウリハムシモドキ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
モロヘイヤ	－	アザミウマ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	1 回	散布	1 回
あしたば	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ふき	－	コナジラミ類 フキノメイガ ヨトウムシ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
うど	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	根株養成期 但し、収穫 45 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
みつば	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用ぎく	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
せり	水田	アブラムシ類	1000 倍	100～150 L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
せり（水耕栽培）	ｶﾞﾗｽ室等の施設	アブラムシ類	1000 倍	100～150 L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
みずいも	水田	オキナワイナゴモドキ	1000 倍	100～150 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
茶	－	チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	2000 倍	200～400 L/10a	摘採 21 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
たばこ	－	タバコガ ヨトウムシ	2000 倍	25～180 L/10a	収穫 10 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
		アブラムシ類 タバコノミハムシ	1000～2000 倍					
採種用とうき	－	キアゲハ	1000 倍	100～300 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
樹木類（つつじ類、ポインセチア、ソテツを除く）	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
つつじ類	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
		ツツジグンバイ			－			
ポインセチア	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
		コナジラミ類	1000 倍		－			
ソテツ	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
		クロマダラソテツシジミ	2000～4000 倍					
宿根かすみそう	－	シロイチモジヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	－	6 回以内	散布	6 回以内
		ヨトウムシ	2000 倍					
りんどう	－	ヒラズハナアザミウマ	2000 倍	100～300 L/10a	－	6 回以内	散布	6 回以内
きく	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
カーネーション	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
ゆり	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	－	6 回以内	散布	6 回以内
トルコギキョウ	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	－	6 回以内	散布	6 回以内
水田作物、畑作物(休耕田)	ﾖｼ、ｵｷﾞ、ｽｽｷ、ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	2000 倍	60～150 L/10a	－	3 回以内	散布	3 回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
(3) 散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。

(4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
(5) 本剤のかんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類がふえることがあるので注意すること。
(6) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
(7) きくのアブラムシ類への使用にあたっては、一部地域のワタアブラムシでは効果が劣ることがあるので使用をさけること。
(8) 採種用とうきに使用する場合は、根部及び葉を収穫せず、種子の収穫に限ること。
(9) 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
(10) 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数300～600倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
(11) 本剤は自動車等の塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
(12) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
(2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
(3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
(4) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
(5) 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。
(6) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こすおそれがあるので、十分注意すること。
(2) 散布後は水管理に注意すること。
(3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――――

危険物第四類第二石油類に属するので、火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項――

火気をさけ、直射日光が当らない低温な場所に密栓して保管すること。

2023年5月24日現在

登録番号　第　16753　号

トレボン®粉剤DL

特長：	●水稲や大豆などの広範囲の害虫に効果を示します。 ●速効的で長い残効性を持っています。

トレボンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.50%	包装	1kg×20
性状	類白色粉末　45μm以下、浮遊性指数　20以下	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】　　2023年2月8日付内容

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	－	イネツトムシ	4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
		カメムシ類 イネミズゾウムシ成虫 ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメイガ アザミウマ類 イナゴ類 イネドロオイムシ ニカメイチュウ	3～4kg/10a				
		イネヒメハモグリバエ フタオビコヤガ	3kg/10a				
小麦	－	ヒメトビウンカ アブラムシ類	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
豆類(種実)	－	ハスモンヨトウ マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ アブラムシ類 アズキノメイガ	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
やまのいも	－	シロイチモジヨトウ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
さといも	－	ハスモンヨトウ	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
えだまめ	－	ハスモンヨトウ	3～4kg/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
		マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ダイズサヤタマバエ	4kg/10a				
ばれいしょ	－	テントウムシダマシ類	4kg/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
かんしょ	－	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ	4kg/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
とうもろこし	－	アワノメイガ	4kg/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
飼料用とうもろこし（子実）	－	アワノメイガ	4kg/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
ﾄﾏﾄ	－	コナジラミ類	4kg/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
きゅうり	－	ウリハムシ	3～4kg/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
		アブラムシ類	4kg/10a				
なす	－	テントウムシダマシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
ｵｸﾗ	－	アブラムシ類	4kg/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
すいか	－	ハスモンヨトウ ウリハムシ	4kg/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
かぼちゃ	－	コナジラミ類	4kg/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
ｷｬﾍﾞﾂ	－	ハスモンヨトウ アブラムシ類 アオムシ	3～4kg/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
はくさい	－	アオムシ	3～4kg/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
		コナガ	4kg/10a				
だいこん	－	アオムシ	3～4kg/10a	収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
		ダイコンハムシ	4kg/10a				
れんこん	－	マメコガネ	4kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕田)	ﾖｼ、ｵｷﾞ、ｽｽｷ、ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	3～4kg/10a	－	3 回以内	散布	3 回以内

使用上の注意事項

(1) 本剤は飛散を少なくするように製剤されており、一般の粉剤に比べ見かけ比重がやや大きく、流動性が良いので、散布の際は散粉機の開度を 1 目盛程度しぼって散布すること。
(2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
(3) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
(4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
  2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
(5) イネミズゾウムシ成虫に使用する場合、移動範囲が広いのでなるべく広域でいっせいに防除し、畦畔などの周辺雑草にも散布すること。
(6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

(1) 誤食などのないよう注意すること。
(2) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
(3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
(4) 作業後は手足、顔等を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

(1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。
(2) 散布後は水管理に注意すること。
(3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法では、その該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　22511　号

MIC®ナメクジ退治

特長：
●薬剤を摂食すると作物の食害を速やかに停止します。
●パラパラ撒いておくだけで処理が簡単です。
●雨、湿気に強い製剤です。
●有効成分は天然にも存在するため、イヌ・ネコのいる場所でも処理できます。
●全ての作物に収穫直前まで使用可能で、有機農産物の栽培にも使えます。（有機JAS適合品）

MICは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	燐酸第二鉄水和物・・・0.98%　／（鉄として・・・0.28%）	包装	150g×10×4 200g×30 300g×20 500g×20 700g×2
その他化管法該当成分	―		
性状	類白色粒状	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	燐酸第二鉄を含む農薬の総使用回数
ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等	温室、ハウス、圃場、花壇	ナメクジ類 カタツムリ類	1～5 g/㎡	発生時	－	ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置	－
		アフリカマイマイ	3～5 g/㎡				
		ヒメリンゴマイマイ	5g/㎡				

使用上の注意事項

(1) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(2) 作物体上に本剤がかからないよう作物周囲あるいは株元の土壌表面に処理すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項ーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　22485　号

ネキリエース®K

特長：	●防除困難なネキリムシ老令幼虫にも高い効果を示します。 ●土壌表面や作物の株元にまくだけなので害虫防除が簡単に出来ます。 ●コオロギにも有効です。 ●優れた誘引作用で虫を引きつけます。

ネキリエースは保土谷化学工業(株)の登録商標です。

有効成分	イソキサチオン・・・0.5%	包装	600g×20
その他化管法該当成分	―		
性状	赤紫色粒状　粒径3㎜　粒長2㎜～10㎜	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む 農薬の総使用回数
はくさい	コオロギ類 ネキリムシ類	3kg/10a	は種時又は定植時～生育初期 但し、収穫14日前まで	1回	土壌表面 株元処理	1回
キャベツ	ネキリムシ類	3kg/10a	は種時又は定植時	1回	土壌表面 株元処理	1回
だいこん	ネキリムシ類	3kg/10a	は種時又は定植時	1回	土壌表面 株元処理	1回
はつかだいこん	ネキリムシ類	3kg/10a	は種時又は定植時	1回	土壌表面 株元処理	1回
ブロッコリー	ネキリムシ類	3kg/10a	定植時～生育初期 但し、収穫14日前まで	4回以内	土壌表面 株元処理	4回以内
レタス	ネキリムシ類	3kg/10a	は種時又は定植時～ 生育初期 但し、収穫21日前まで	2回以内	土壌表面 株元処理	2回以内
非結球レタス	ネキリムシ類	3kg/10a	は種時又は定植時	2回以内	土壌表面 株元処理	2回以内
なばな	ネキリムシ類	3kg/10a	発芽期まで	1回	土壌表面 株元処理	1回
だいず	ネキリムシ類	3kg/10a	は種時～本葉2葉期	2回以内	土壌表面 株元処理	2回以内
いちご	ハスモンヨトウ	3kg/10a	収穫前日まで	1回	土壌表面 株元処理	1回
葉ごぼう	ネキリムシ類	3kg/10a	は種時～子葉展開期	2回以内	土壌表面 株元処理	2回以内

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む 農薬の総使用回数
えだまめ	ネキリムシ類	3kg/10a	収穫21 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	5 回以内 (粉剤及び粉粒剤のは種時の処理は合計 1 回以内、粉剤及び粉粒剤の定植時は合計 1 回以内、粉剤の土壌表面散布は 1 回以内、粒剤の土壌表面株元処理は 2 回以内)
さといも	ネキリムシ類	3kg/10a	収穫14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
ごぼう	ネキリムシ類	3kg/10a	収穫14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
かぶ	ネキリムシ類	3kg/10a	収穫30 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	2 回以内
ねぎ	ネキリムシ類	3kg/10a	収穫30 日前まで	2 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内 (は種時は 1 回以内、植付時は 1 回以内、植付後は 2 回以内)
にんじん	ネキリムシ類	3kg/10a	発芽期～生育初期 但し、収穫14 日前まで	4 回以内	土壌表面 株元処理	4 回以内
メロン	コオロギ類	3kg/10a	収穫直前まで	1 回	配置	1 回
えごま(種子)	ネキリムシ類	3kg/10a	定植時	1 回	土壌表面 株元処理	1 回
たばこ	ネキリムシ類	3kg/10a	植付時	1 回	株元処理	2 回以内

使用上の注意事項――

(1) 被害の発生をみたら作物の根際にそのまま散布すること。
(2) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
(3) メロンに使用する場合には、以下の点に注意すること。
　① 収穫前増糖時の乾燥期にコオロギによる食害が発生するので、食害防止に使用すること。
　② 実にかからないように果実周辺に 1 カ所あたり数粒ずつ容器に入れ、土壌表面、あるいは床面に配置すること。
　③ 雨や水がかかると効果が低下するので、ハウスで使用する場合は、できるだけ灌水がかからない場所に配置すること。また、露地で使用する場合は、降雨の予想されるときには使用を避けること。
(4) 犬、猫などペット類、家畜が食べないようにすること。食べる可能性のあるところでは使用及び保管をしないこと。
(5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
(6) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――

(1) 誤食などのないよう注意すること。
(2) 本剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びPAM 製剤が有効であると報告されている。
(3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(4) 散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。作業後はうがいをすること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨ーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　11573　号

トップジン®M水和剤

特長：	●本剤は日本曹達が発明開発した強力な浸透性殺菌剤です。 ●予防効果・治療効果とも優れており、しかもすばらしい効果が長続きし、薬害も少ないので、多くの作物病害防除剤として好適です。

トップジンは日本曹達（株）の登録商標です。

有効成分	チオファネートメチル（化管法第1種）・・・70.0%	包装	（1g×10）×10×5
その他化管法該当成分	―		
性状	淡褐色水和性粉末45μm以下	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
みかん	―	そうか病	30倍	8L/10a	4～6月	5回以内	空中散布	8回以内 （塗布は3回以内、） 散布、空中散布 及び無人航空機散布 は合計5回以内）
		灰色かび病 そうか病	1000～1500倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで		散布	
		貯蔵病害（軸腐病） 貯蔵病害（青かび病） 貯蔵病害（緑かび病）	2000～3000倍					
かんきつ（みかんを除く）	―	貯蔵病害（軸腐病） 貯蔵病害（青かび病） 貯蔵病害（緑かび病）	2000～3000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	散布	8回以内 （塗布は3回以内、 散布及び 無人航空機散布は 合計5回以内）
りんご	―	黒星病 うどんこ病 黒点病 褐斑病	1000～2000倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	6回以内	散布	10回以内 （塗布は3回以内、 灌注は1回以内、 散布は6回以内）
		腐らん病 ﾓﾆﾘｱ病（実腐れ） 輪紋病 すす点病 すす斑病	1000～1500倍					
		白紋羽病	500～1000倍	－	休眠期～ 生育期	1回	灌注	
マルメロ	―	腐らん病	1000～1500倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	6回以内	散布	9回以内 （塗布は3回以内、 散布は6回以内）

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
なし	―	黒星病 うどんこ病	1000～2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	6 回以内	散布	11 回以内 (塗布は 3 回以内、休眠期の散布は 1 回以内、灌注は 1 回以内、生育期の散布は 6 回以内)
		腐らん病	1000 倍					
		輪紋病 心腐れ症(胴枯病菌) 胴枯病	1000～1500 倍					
		白紋羽病	500～1000 倍	－	休眠期	1 回	灌注	
かりん	―	腐らん病	1000～1500 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	6 回以内	散布	9 回以内 (塗布は 3 回以内、散布は 6 回以内)
かき	―	うどんこ病 炭疽病 落葉病 黒星落葉病 すす点病	1000～1500 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	6 回以内	散布	10 回以内 (塗布は 3 回以内、休眠期の散布は 1 回以内、生育期の散布は 6 回以内)
もも	―	灰星病 黒星病 ﾎﾓﾌﾟｼｽ腐敗病	1000～1500 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	6 回以内	散布	10 回以内 (塗布は 3 回以内、休眠期の散布は 1 回以内、生育期の散布は 6 回以内)
		枝折病 うどんこ病	1000 倍					
ぶどう	―	灰色かび病 褐斑病 うどんこ病 黒とう病	1000～2000 倍	200～700 L/10a	収穫 45 日前まで	1 回	散布	5 回以内 (塗布は 3 回以内、休眠期の散布は 1 回以内、生育期の散布は 1 回以内)
		晩腐病 芽枯病	1000 倍					
		苦腐病	1000～1500 倍					
おうとう	―	灰星病 せん孔病 幼果菌核病	1000～1500 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	6 回以内 (塗布は 3 回以内、散布は 3 回以内)
びわ	―	ごま色斑点病	800 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	7 回以内 (塗布は 3 回以内、散布は 3 回以内、灌注は 1 回以内)
		灰斑病	800～1000 倍					
		白紋羽病	300～500 倍	－	収穫後 (7 月上旬～9 月上旬)	1 回	灌注	

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
小粒核果類	―	灰星病 環紋葉枯病 葉炭疽病 黒星病 黒粒枝枯病	1000～1500 倍	200～700 L/10a	収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	すももは 6 回以内（塗布は 3 回以内、休眠期の散布は 1 回以内、生育期の散布は 3 回以内）、その他の小粒核果類は 6 回以内（塗布は 3 回以内、散布は 3 回以内）
いちじく	―	黒葉枯病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前まで	5 回以内	散布	14 回以内（塗布は 3 回以内、灌注は 6 回以内、散布は 5 回以内）
		黒かび病 そうか病	1000～1500 倍					
		株枯病	500 倍	1～10L/株	収穫前日まで	6 回以内	灌注	
キウイフルーツ	―	果実軟腐病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	8 回以内（塗布は 3 回以内、散布は 5 回以内）
あけび（果実）	―	うどんこ病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
オリーブ	―	梢枯病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	5 回以内（塗布は 3 回以内、散布は 2 回以内）
くり	―	実炭疽病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	7 回以内（散布は 4 回以内、塗布は 3 回以内）
りんご（苗木）	―	白紋羽病	500 倍	－	植付前	1 回	10 分間根部浸漬	6 回以内
なし（苗木）	―	白紋羽病	500 倍	－	植付前	1 回	10 分間根部浸漬	6 回以内
もも（苗木）	―	白紋羽病	500 倍	－	植付前	1 回	10 分間根部浸漬	7 回以内（散布は 6 回以内）
桑（苗木）	―	白紋羽病	500 倍	－	植付前	1 回	10 分間根部浸漬	3 回以内
水稲	―	ばか苗病	300～500 倍	－	は種前（浸種前又は浸種後）	1 回	6～24 時間種子浸漬	3 回以内（種子への処理は 1 回以内）
			30 倍				10 分間種子浸漬	

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
麦類（小麦を除く）	―	雪腐病	1000～2500 倍	60～150 L/10a	根雪前	3 回以内（出穂期以降は 1 回以内）	散布	3 回以内（種子への処理は 1 回以内、出穂期以降は 1 回以内）
		赤かび病	1000～1500 倍		収穫 30 日前まで			
		うどんこ病	1000～2000 倍					
		眼紋病	1000 倍					
小麦	―	雪腐病	1000～2500 倍	60～150 L/10a	根雪前	3 回以内（出穂期以降は 2 回以内）	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、散布及び無人航空機散布は合計 3 回以内、出穂期以降は 2 回以内）
		雪腐大粒菌核病	1000 倍					
			250～500 倍	25L/10a				
		赤かび病	250 倍		収穫 14 日前まで			
			1000～1500 倍	60～150 L/10a				
		うどんこ病	1000～2000 倍					
		眼紋病	1000 倍					
だいず	―	紫斑病	種子重量の 0.5%	－	は種前	1 回	粉衣	4 回以内（種子への処理は 1 回以内）
		紫斑病	1000～1500 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	4 回以内	散布	
		菌核病	700～1500 倍					
あずき	―	菌核病 輪紋病 炭疽病	700～1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	4 回以内	散布	5 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 4 回以内）
いんげんまめ	―	角斑病 菌核病 苗立枯病	700～1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	5 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 4 回以内）
		炭疽病	700～1500 倍					
えんどうまめ	―	褐紋病 褐斑病 灰色かび病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	5 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 4 回以内）
実えんどう	―	褐紋病 褐斑病 灰色かび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内）
さやえんどう	―	褐紋病 褐斑病 灰色かび病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内）
えだまめ	―	菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内）

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
らっかせい	―	褐斑病 黒渋病 灰色かび病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	5 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 4 回以内)
		そうか病 茎腐病	1500 倍					
やまのいも	―	葉渋病 炭疽病	800 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	5 回以内	散布	5 回以内
やまのいも(むかご)	―	葉渋病 炭疽病	800 倍	100～300 L/10a	収穫 45 日前まで	5 回以内	散布	5 回以内
ばれいしょ	―	菌核病	1000～1500 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	5 回以内	散布	5 回以内 (種いもへの処理は 1 回以内)
かんしょ	―	黒斑病	200～500 倍	-	植付前	1 回	20～30 分間種いも又は苗茎部浸漬	1 回
		基腐病			貯蔵前～伏せ込み前		30 分間採苗用種いも浸漬	
さといも	―	黒斑病	200～500 倍	-	植付前	1 回	20～30 分間種いも浸漬	1 回
さといも(葉柄)	―	黒斑病	200～500 倍	-	植付前	1 回	20～30 分間種いも浸漬	1 回
キャベツ	―	根朽病 株腐病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
		菌核病	1000～1500 倍					
はくさい	―	白斑病 炭疽病	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
		菌核病	1500～2000 倍					
カリフラワー	―	菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	―	菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内）
非結球レタス	―	菌核病 灰色かび病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内）
せり	―	葉枯病	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内）
食用べにばな(花)	―	炭疽病	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内）
食用ぎく	―	褐斑病	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 28 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内）
ｾﾙﾘｰ	―	斑点病	1500 倍	100～300 L/10a	収穫 60 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内）
みつば	―	菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで ただし、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	2 回以内	散布	3 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内）
みしまさいこ	―	炭疽病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 2 回以内）
食用ゆり	―	鱗茎さび症	50 倍	－	植付前	1 回	球根瞬間浸漬	1 回
レタス	―	菌核病 灰色かび病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、灌注は 1 回以内、散布は 2 回以内）
		すそ枯病	1500 倍					
		ビッグベイン病 菌核病		1.5L/㎡	収穫 45 日前まで	1 回	灌注	
にら	―	白斑葉枯病 乾腐病	1000 倍	3L/㎡	収穫 21 日前まで	1 回	灌注	2 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内）

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙを含む農薬の総使用回数
メロン	―	つる枯病 陥没病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	5 回以内 (種子への処理は 1 回以内、塗布は 1 回以内、散布は 3 回以内)
かぼちゃ	―	白斑病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
すいか	―	炭疽病 菌核病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
きゅうり	―	菌核病 黒星病 炭疽病 うどんこ病 灰色かび病 つる枯病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
うり類 (漬物用)	―	炭疽病 うどんこ病 灰色かび病 つる枯病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
にがうり	―	炭疽病 斑点病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
ﾄﾏﾄ	―	葉かび病 灰色かび病 菌核病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
ﾐﾆﾄﾏﾄ	―	葉かび病 灰色かび病 菌核病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
なす	―	黒枯病 灰色かび病 菌核病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
アスパラガス	―	茎枯病 立枯病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫開始 7 日前まで	5 回以内	散布	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内)

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
てんさい	―	褐斑病	2000～3000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	5 回以内	散布	5 回以内
ピーマン	―	黒枯病	4000～6000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内）
ズッキーニ	―	うどんこ病	1500 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内）
オクラ	―	葉すす病	1500 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内）
いちご	―	うどんこ病	1500 倍	100～300 L/10a	収穫開始 21 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内）
			1000 倍	－	株冷蔵栽培の株冷蔵前		5 分間株浸漬	
		萎黄病	300～500 倍		仮植前		1 時間苗根部浸漬	
				3L/㎡	仮植時及び仮植栽培期		灌注	
ねぎ	―	小菌核腐敗病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	5 回以内（種子への処理は 1 回以内、苗根部浸漬及び苗床灌注は合計 1 回以内、散布及び株元散布は合計 3 回以内）
			250 倍	ﾁｪｰﾝﾎﾟｯﾄ 1 冊（30×60cm、土壌量約 5L）当り 0.5～1L	定植直前	1 回	苗床灌注	
		萎凋病 小菌核腐敗病	20 倍	－			3 分間苗根部浸漬	
			200 倍				30 分間苗根部浸漬	
たまねぎ	―	小菌核病 灰色腐敗病	500～1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	6 回以内（但し定植後は 5 回以内）	散布	7 回以内（種子への処理は 1 回以内、苗根部浸漬は 1 回以内、無人航空機散布は 3 回以内、散布は 5 回以内）
		灰色腐敗病	500 倍	－	定植直前		5 分間苗根部浸漬	

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
たらのき	―	芽枯症	2000 倍	0.1～0.3 L/㎡	伏せ込み後萌芽前 但し、収穫 21 日前まで	1 回	駒木散布	3 回以内（伏せ込み前は 2 回以内、伏せ込み後は 1 回以内）
		そうか病	1500 倍	200～700 L/10a	伏せ込み前 但し、収穫 60 日前まで	2 回以内	散布	
らっきょう	―	乾腐病	1000 倍	700ml/㎡	収穫 7 日前まで	3 回以内	株元灌注	3 回以内
ししとう	―	黒枯病	10000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
れんこん	―	褐斑病	1500 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
葉たまねぎ	―	黒点葉枯病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内（種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内）
甘草	―	株枯病	200 倍	－	植付前	1 回	30 分間苗浸漬	1 回
しょうが	―	いもち病 白星病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
なたね	―	菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前まで	3 回以内（開花後は 2 回以内）	散布	3 回以内（開花後は 2 回以内）
		雪腐菌核病			根雪前			
茶	―	炭疽病 白星病 褐色円星病 輪斑病	1500～2000 倍	200～400 L/10a	摘採 7 日前まで	1 回	散布	1 回
		黒葉腐病	1500 倍					
まめ科牧草	―	菌核病	2000 倍	100～300 L/10a	根雪前	1 回	散布	1 回
いね科牧草	―	雪腐大粒菌核病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	根雪前	2 回以内	散布	2 回以内
ばら	―	うどんこ病 黒星病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
シクラメン	―	灰色かび病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
ゆり	―	葉枯病 茎腐病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙを含む農薬の総使用回数
きく	―	褐斑病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
さくらそう	―	灰色かび病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
カーネーション	―	芽腐病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
けいとう	―	茎腐病 輪紋病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
ほおずき	―	半身萎凋病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
きんせんか	―	半身萎凋病	1500～2000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
りんどう	―	花腐菌核病	1500 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
チューリップ	―	球根腐敗病	球根重量の 0. 1%	－	植付前又は貯蔵前	1 回	球根粉衣	5 回以内
べにばな	―	炭疽病	1500 倍	100～300 L/10a	－	2 回以内	散布	5 回以内
観賞用アスパラガス	―	茎枯病	500～1000 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
花き類･観葉植物(トルコギキョウヲ除く)	―	菌核病	1500 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
ﾄﾙｺｷﾞｷｮｳ	―	菌核病 斑点病	1500 倍	100～300 L/10a	－	5 回以内	散布	5 回以内
樹木類(つつじ類､かし､さくら､じんちょうげ､ぼけ､ポプラ､いぬつげを除く)	―	炭疽病	1000～2000 倍	200～700 L/10a	発病初期	5 回以内	散布	5 回以内
		うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(シュードサーコスポラ菌)	1000 倍					
つつじ類	―	褐斑病	1000～1500 倍	100～300 L/10a	発病初期	5 回以内	散布	5 回以内
		炭疽病	1000～2000 倍					
		うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(シュードサーコスポラ菌)	1000 倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙを含む農薬の総使用回数
さくら	―	幼果菌核病	1000～1500 倍	200～700 L/10a	発病初期	5 回以内	散布	5 回以内
		炭疽病	1500～2000 倍					
		うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(シュードサーコスポラ菌)	1000 倍					
かし	―	炭疽病	1000～2000 倍	200～700 L/10a	発病初期	5 回以内	散布	5 回以内
		紫かび病 うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(シュードサーコスポラ菌)	1000 倍					
じんちょうげ	―	炭疽病	1000～2000 倍	100～300 L/10a	発病初期	5 回以内	散布	5 回以内
		黒点病 うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(シュードサーコスポラ菌)	1000 倍					
ぼけ	―	炭疽病	1000～2000 倍	100～300 L/10a	発病初期	5 回以内	散布	5 回以内
		褐斑病 うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(シュードサーコスポラ菌)	1000 倍					
ポプラ	―	炭疽病	1000～2000 倍	200～700 L/10a	発病初期	5 回以内	散布	5 回以内
		ﾏﾙｿﾞﾆﾅ落葉病 うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(ｼｭｰﾄﾞｻｰｺｽﾎﾟﾗ菌)	1000 倍					
いぬつげ	―	炭疽病	1000～2000 倍	200～700 L/10a	発病初期	5 回以内	散布	5 回以内
		枝枯病 うどんこ病 ごま色斑点病 輪紋葉枯病 斑点症(ｼｭｰﾄﾞｻｰｺｽﾎﾟﾗ菌)	1000 倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数
たばこ（苗床）	―	腰折病	1000～2000 倍	2L/㎡	苗床期	2 回以内	散布	2 回以内
		黒根病	1000 倍					
桑	―	裏うどんこ病 汚葉病	1000～2000 倍	100～300 L/10a	-	3 回以内	散布	3 回以内
		輪斑病	1000～1500 倍					
ﾄﾏﾄ	温室、ｶﾞﾗｽ室、ﾋﾞﾆｰﾙﾊｳｽ等密閉できる場所	灰色かび病	100～200g/10a	5L/10a	収穫前日まで	5 回以内	常温煙霧	6 回以内 （種子への処理は 1 回以内、は種後は 5 回以内）

使用上の注意事項－－－

(8) いちじくに対して灌注処理する場合は次の事項に注意すること。
① 1ヶ月間隔で使用することが望ましい。
② 生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさけること。
(9) 水稲の種子消毒に使用する場合は、下記の注意を守ること。
① 消毒後は水洗せずに浸種または播種すること。
② 浸漬処理薬液の温度はなるべく10℃以下をさけること。
③ 籾と浸漬処理薬液の容量比は1：1以上とし、種籾はサラン網などの目のあらい袋を用い、薬液処理時によくゆすること。
④ 低濃度（300～500倍）長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回撹拌すること。
⑤ 本剤処理を行った種子の浸種に当たっては次の注意を守ること。
ⅰ）薬剤処理した種籾は少なくとも数時間は放置して風乾後浸種すること。
ⅱ）浸種は停滞水中で行うこと。
ⅲ）浴比は1：2とし、水の交換は原則として行わないこと。但し、液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水すること。
⑥ 薬剤処理した種子は、食料、飼料に使用しないよう注意すること。
(10) れんこんに使用する場合、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
(11) 麦の雪腐病防除に使用する場合、散布液量は10アール当り100Lが標準である。なお、1回散布の場合にはなるべく根雪近くに行うと効果的である。
(12) 小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。
(13) チューリップの球根粉衣は植付前または貯蔵前に球根1kgに対し、本剤1gを均一に粉衣すること。
(14) 本剤を大型散布機で使用する場合には、各散布機種の散布基準に従って実施すること。
(15) 本剤は、連続使用によって一部の病害に耐性菌を生じ、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組み合せて、輪番で使用すること。
(16) だいずの紫斑病に対しては、落花後～若莢期に2～3回散布すること。
(17) だいずの紫斑病防除には種子消毒のみでは不十分なので、生育期の散布による防除と組合せて使用すること。
(18) 果樹の白紋羽病に対し、灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去したのち、所定濃度の希釈液を1本当り成木では200～300L、苗木では20～30L灌注すること。
(19) かんしょ、さといもの種いも消毒後は水洗せずに薬液が乾いてから植付けること。薬液処理した種いもは食料、飼料に使用しないこと。
(20) アスパラガスの茎枯病の防除は収穫打ち切り後、残茎を取り除き新しく萌芽した茎を対象とすること。
(21) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。また、桑に使用後3日間は蚕に桑葉を給餌しないこと。
(22) ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意を守ること。
① 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
② 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。できれば翌朝までとすること。
(23) たばこの親床での処理は播種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布すること。
(24) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(25) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
(2) 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
(3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
(4) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
(5) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

常温煙霧の場合の注意　［ ハウスなど ］ーーー

2023年4月5日現在

登録番号第　18210　号

ネビジン®粉剤

特長：
●幅広いアブラナ科作物の根こぶ病に安定した効果を示します。
●残効性に優れ長期間効果が持続します。
●毎年の連用により、効果がより一層安定します。

ネビジンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	フルスルファミド・・・0.30%	包装	1kg×20
性状	淡黄色粉末45μm以下	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	−

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルスルファミドを含む農薬の総使用回数
ｷｬﾍﾞﾂ	菌核病	30kg/10a	定植前	2回以内	全面土壌混和	2回以内
	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前			
		20kg/10a			作条土壌混和	
はくさい	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
ブロッコリー	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
カリフラワー	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
非結球あぶらな科葉菜類（なばな類を除く）	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
なばな類	根こぶ病	20～30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
			は種前		作条土壌混和	
		20kg/10a	定植前			
レタス	菌核病	20～30kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	1回
かぶ	根こぶ病	30kg/10a	は種又は定植前	1回	全面土壌混和	1回
		20kg/10a			作条土壌混和	
だいこん	根こぶ病	30kg/10a	は種前	1回	全面土壌混和	1回

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルスルファミドを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	そうか病	30kg/10a	植付時	1回	作条土壌混和	2回以内(種いも浸漬は1回以内、土壌混和は1回以内)
	そうか病 粉状そうか病	60kg/10a			全面土壌混和	

使用上の注意事項

(1) 本剤の所定量を作条又は全面に散布し、土壌とよく混和した後、は種、定植又は植付けすること。
(2) 本剤の作条土壌混和を行う際は、本剤の所定量を畦上全面に散布し、土壌中に均一に分布するようによく混和すること。
(3) つまみ菜・間引き菜には使用しないこと。
(4) ばれいしょのそうか病に対しては、多発性条件では効果が劣る場合があるので注意すること。
(5) みずかけなに使用する場合、水掛け開始は薬剤処理後2ヵ月以降を厳守すること。
(6) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。特に適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

(1) 誤食などのないように注意すること。
(2) 本剤による中毒（痙攣）の治療法としては動物実験でメトカルバモール製剤の投与が有効であると報告されている。
(3) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(4) 散布の際は防護マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法では、その該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　20854　号

アタックワン®AL

特長：	●草花の害虫と病気の両方に効果を発揮します。 ●アブラムシ、ハダニ類、ケムシ類に効果があります。 ●うどんこ病や黒星病にかかりにくくし、また病気の進行も防ぎます。 ●植物にやさしい水性処方で、いやなニオイもありません。

アタックワンは日本農薬(株)の登録商標です。

有効成分	ビフェントリン・・・0.003% ミクロブタニル・・・0.008%	包装	1000mL×16
その他化管法該当成分	―		
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	3年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ビフェントリンを含む農薬の総使用回数	ミクロブタニルを含む農薬の総使用回数
花き類･観葉植物(ばら、きくを除く)	アブラムシ類 うどんこ病 ハダニ類	原液	発生又は発病初期	－	散布	－	－
ばら	アブラムシ類 ハダニ類 チュウレンジハバチ うどんこ病 黒星病	原液	発生又は発病初期	－	散布	－	－
きく	アブラムシ類 ハダニ類 うどんこ病 白さび病	原液	発生又は発病初期	－	散布	－	－
樹木類	ｹﾑｼ類	原液	発生又は発病初期	－	散布	－	－

使用上の注意事項――

(1) 花弁にかからないよう注意すること。
(2) 風上から散布し、噴霧液を浴びたりしないように注意する。
(3) 風向きに注意し、飲食物、自動車、家具等にかからないように注意すること。
(4) 散布中、液ダレし、手にかかることがあるので散布後石けんでよく洗い落とすこと。
(5) ペットや水産動物を飼っている水槽等に向かって散布しない。
(6) 蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着する恐れのある場所では使用しないこと。また、ミツバチに対しても影響があるので注意して使用すること。
(7) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　9625　号

サンヨール®

特長：
●野菜と花の病気や害虫の防除に最適です。
●農薬の適用作物や適用病害虫など広範に登録があります。
●薬害が少なく、化学的、物理的に安定した薬剤です。

サンヨールは米澤化学（株）の登録商標です。

有効成分	DBEDC・・・20.0%	包装	100mL×10×6
その他化管法該当成分	―		
性状	淡青色乳剤	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	2石-Ⅲ

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	DBEDCを含む農薬の総使用回数
さやえんどう	うどんこ病 灰色かび病	500倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
実えんどう	うどんこ病 灰色かび病	500倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
なす	うどんこ病 すすかび病	700倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
ﾄﾏﾄ	葉かび病 灰色かび病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	500倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
	うどんこ病	500～700倍					
ﾐﾆﾄﾏﾄ	葉かび病 灰色かび病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	500倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
	うどんこ病	500～700倍					
ﾋﾟｰﾏﾝ	うどんこ病 アブラムシ類	500倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
甘長とうがらし	うどんこ病 アブラムシ類	500倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内
すいか	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	500倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4回以内	散布	4回以内

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	DBEDC を含む 農薬の総使用回数
きゅうり	べと病 うどんこ病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
ﾒﾛﾝ	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
うり類 (漬物用)	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
にがうり	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
かぼちゃ	うどんこ病	500 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
ｽﾞｯｷｰﾆ	うどんこ病	500 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
いちご	うどんこ病	500 倍	－	定植前	1 回	瞬間～5 分間苗浸 漬	6 回以内 (定植前の苗浸漬 は 1 回以内)
		800 倍				5 分間苗 浸漬	
		500～1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	6 回以内	散布	
	灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍					
花き類･観葉植物(きく、ばら、ペチュニア、スターチス、プリムラ、パンジーを除く)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	発生初期	8 回以内	散布	8 回以内
きく	うどんこ病 褐斑病 灰色かび病 白さび病 黒斑病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	発生初期	8 回以内	散布	8 回以内
スターチス	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	開花前ま で	8 回以内	散布	8 回以内

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	DBEDC を含む 農薬の総使用回数
ばら	うどんこ病	500～1000 倍	100～300 L/10a	発生初期	8 回以内	散布	8 回以内
	灰色かび病 黒星病 アブラムシ類 ハダニ類 チュウレンジハバチ	500 倍					
ペチュニア	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	開花前まで	8 回以内	散布	8 回以内
	ナメクジ類	250～500 倍					
プリムラ	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	開花前まで	8 回以内	散布	8 回以内
パンジー	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	500 倍	100～300 L/10a	開花前まで	8 回以内	散布	8 回以内
樹木類 （つつじ類を除く）	うどんこ病 アブラムシ類	500 倍	200～700 L/10a	発生初期	8 回以内	散布	8 回以内
つつじ類	ツツジグンバイ ツツジコナジラミ うどんこ病 アブラムシ類	500 倍	200～700 L/10a	発生初期	8 回以内	散布	8 回以内
たばこ	うどんこ病	500 倍	25～180 L/10a	－	2 回以内	散布	2 回以内
日本芝	葉腐病 （ラージパッチ） さび病	300～500 倍	0.5L/㎡	発生初期	8 回以内	散布	8 回以内

使用上の注意事項――

(1) 高温で作物に薬害を起こす恐れのあるときは使用に注意する。ハウス又は露地栽培では高温時の使用をさける（薬害）
(2) 湿度の多い施設内で使用する場合は、散布した薬液が速く乾燥するように通気性をよくして散布する。
(3) いちごの灰色かび病の多発時には効果が劣ることがあるので、発生初期に予防的に使用する（効果）
(4) いちごの苗浸漬に使用する場合、根を露出した状態では薬害を生じるので、ポット苗（ポットをつけたまま）以外には使用しない（薬害）
(5) パンジー、スターチス、ペチュニア、プリムラに使用する場合、花弁に変色症状等の薬害が生ずるので、開花中は使用しない（薬害）
(6) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

(1) 誤飲などのないよう注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせる。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受ける。
(2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗いし、眼科医の手当てを受ける。
(3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石鹸でよく洗い落とす。
(4) 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石鹸でよく洗い、うがいをするとともに洗眼する。
(5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
(6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。
(7) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係ない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札をたてるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

一時に広範囲に使用する場合には十分注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

危険物第四類第二石油類に属するので、火気に十分注意すること。

貯蔵上の注意事項ーーー

密栓し、火気・直射日光をさけ、食品と区別して、低温な場所に保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　20849　号

サンヨール®液剤AL

特長：	●本製品は、長年、農家にご愛用頂いているサンヨール®乳剤をご家庭でも使いやすいように希釈したそのまま使えるスプレー剤です。 ●この1本で花と野菜のアブラムシ類・コナジラミ等の殺虫と、うどんこ病などの殺菌に効果があります。

サンヨールは米澤化学（株）の登録商標です。

有効成分	DBEDC・・・0.04%	包装	400mL×30、1000mL×16
その他化管法該当成分	―		
性状	淡青紫色澄明液体	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	DBEDCを含む農薬の総使用回数
きゅうり	うどんこ病 べと病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
トマト	うどんこ病 葉かび病 灰色かび病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
ミニトマト	うどんこ病 葉かび病 灰色かび病 コナジラミ類 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
ピーマン	うどんこ病 アブラムシ類	原液	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
すいか	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
メロン	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類	原液	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
かぼちゃ	うどんこ病	原液	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	DBEDC を含む農薬の総使用回数
いちご	ハダニ類 うどんこ病 アブラムシ類	原液	収穫前日まで	6 回以内	散布	6 回以内 （定植前の苗浸漬は 1 回以内）
ばら	アブラムシ類 チュウレンジハバチ 黒星病 ハダニ類 うどんこ病 ナメクジ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
きく	白さび病 アブラムシ類 ハダニ類 うどんこ病 ナメクジ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
ペチュニア	うどんこ病 ナメクジ類 ハダニ類 アブラムシ類	原液	開花前まで	8 回以内	散布	8 回以内
スターチス	うどんこ病 ナメクジ類 ハダニ類 アブラムシ類	原液	開花前まで	8 回以内	散布	8 回以内
プリムラ	うどんこ病 ナメクジ類 ハダニ類 アブラムシ類	原液	開花前まで	8 回以内	散布	8 回以内
パンジー	うどんこ病 ナメクジ類 ハダニ類 アブラムシ類	原液	開花前まで	8 回以内	散布	8 回以内
さるすべり	うどんこ病 アブラムシ類 カイガラムシ類 ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
まさき	ツノロウムシ ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
さざんか	ツノロウムシ ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
つつじ類	ツツジグンバイ ツツジコナジラミ ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	DBEDC を含む農薬の総使用回数
樹木類（つつじ類、まさき、さるすべり、さざんかを除く）	ケムシ類 イラガ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
花き類･観葉植物（きく、ばら、ペチュニア、スターチス、プリムラ、パンジーを除く）	うどんこ病 ハダニ類 アブラムシ類 ナメクジ類	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内
日本芝	葉腐病 （ラージパッチ） さび病	原液	－	8 回以内	散布	8 回以内

使用上の注意事項――

(1) ハウスまたは露地栽培で高温時の場合には葉の変色等の薬害を生ずるおそれがあるので、その場合は使用をさけること。
(2) 多湿下の施設内で使用する場合は、散布した薬液が速く乾燥するように通気性をよくして散布すること。
(3) スターチス、パンジー、ペチュニア、プリムラに使用する場合、花弁に変色症状の薬害が生ずるので開花中は使用しないこと。
(4) ナメクジ類に対して使用する場合は、薬液が虫体にかかるように散布すること。
(5) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(6) 害虫防除の場合、本剤は界面活性系のため、虫体の気孔・気門閉塞作用によって殺虫効果を生じさせるので、十分量虫体にかかるように散布すること。また、一度の散布で害虫が残った場合には改めて散布して下さい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――

(1) 人に向かって噴射しないこと。
(2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(3) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
(4) 散布の際は、保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
(5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
(6) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
(7) 本剤を施設内で使用するとき、アルコール濃度が高いため特にアルコールに弱い体質の方は、揮発性ガスにより気分が悪くなったり、酔う恐れがあるので、換気を十分にすること。
(8) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――

本剤は水産動物に影響を及ぼすが、通常の使用方法では問題ない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――

引火性があるので、火気に十分注意すること。

貯蔵上の注意事項――

(1) 火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管すること。
(2) 子供の手の届かない場所に保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　23228　号

サンヨール®トレボン®スプレー

特長：	●本製品は、長年、農家にご愛用いただいているサンヨール乳剤と、花・野菜用殺虫剤のトレボン乳剤をご家庭でも使いやすい様に希釈したそのまま使えるスプレー剤です。 ●ばら・きくのアブラムシ類・うどんこ病、お花のうどんこ病に、きゅうり・トマトの虫・病気にも効果があります。

サンヨールは米澤化学（株）の登録商標です。トレボンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.020% DBEDC・・・0.040%	包装	1000mL×16
その他化管法該当成分	―		
性状	淡青紫色水和性懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数	DBEDCを含む農薬の総使用回数
きゅうり	うどんこ病 べと病 アブラムシ類 コナジラミ類	原液	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	4回以内
トマト	灰色かび病 葉かび病 アブラムシ類 コナジラミ類	原液	収穫前日まで	2回以内	散布	2回以内	4回以内
きく	うどんこ病 白さび病 アブラムシ類 ハダニ類	原液	発生初期	6回以内	散布	6回以内	8回以内
ばら	うどんこ病 黒星病 アブラムシ類 チュウレンジハバチ ハダニ類	原液	発生初期	6回以内	散布	6回以内	8回以内
花き類･観葉植物（ばら、きくを除く）	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類 ナメクジ類	原液	発生初期	6回以内	散布	6回以内	8回以内
樹木類	うどんこ病 アブラムシ類 ケムシ類	原液	発生初期	6回以内	散布	6回以内	8回以内

使用上の注意事項ーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　22939　号

クサクリア®

特長：	●葉や茎から吸収され、 雑草体内に移行し、根まで枯れる除草剤です。 ●スギナ、セイタカアワダチソウ、イタドリ、ヤブガラシ、ススキ、ササなどの雑草、かん木を根まで枯らします。

クサクリアは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートイソプロピルアミン塩（化管法第1種）・・・41.0%	包装	500ml×20 1L×12 5L×4 10L×2
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量(薬量)	使用量(希釈水量)	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
果樹類（かんきつ、パイナップルを除く）	－	一年生雑草	収穫7日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
かんきつ	－	一年生雑草	収穫7日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	3回以内	雑草茎葉散布	5回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
野菜類（えだまめ、キャベツ、はつかだいこん、だいこん、とうがらし類、にんじん、ピーマン、ねぎ、たまねぎ、アスパラガス、オリーブ(葉)、きゅうり、たらのき、トマト、なす、びわ(葉)、ほうれんそう、レタス、薬用にんじん、豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)、かんしょを除く）	－	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布2 5～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1回	雑草茎葉散布	1回

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
かんしょ	－	一年生雑草	耕起又は挿苗７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	２回以内
豆類（種実、ただし、だいず、らっかせいを除く）	－	一年生雑草	は種７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	２回以内	雑草茎葉散布	２回以内
だいず	－	一年生雑草	は種７日前まで（雑草生育期） は種後出芽前まで（雑草生育期） 畦間処理：雑草生育期 但し、収穫前日まで	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a 通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	２回以内	雑草茎葉散布	４回以内
えだまめ	－	一年生雑草	は種７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
とうがらし類	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	２回以内
にんじん	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	２回以内
ピーマン	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	２回以内
アスパラガス	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
オリーブ（葉）	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
きゅうり	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
しゃくやく（薬用）	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
たらのき	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
トマト	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
なす	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
びわ(葉)	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
ほうれんそう	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
レタス	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
薬用にんじん	－	一年生雑草	耕起又は定植 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	10 回以内（1 年間に 2 回以内）
キャベツ	－	一年生雑草	耕起又は定植 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	1 回
だいこん	－	一年生雑草	耕起又は は種 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
はつかだいこん	－	一年生雑草	耕起又は は種 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	1 回
たまねぎ	－	一年生雑草	耕起又は定植 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
			定植後畦間処理 但し、収穫 30 日前まで（雑草生育期）		通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
ねぎ	－	一年生雑草	耕起又は定植 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
			定植後畦間処理 但し、収穫 30 日前まで（雑草生育期）		通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
麦類（小麦を除く）	－	一年生雑草	耕起 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	3 回以内
			は種後出芽前（雑草生育期）		通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
小麦	－	多年生イネ科雑草	耕起前又は は種前まで（雑草生育期）	250～1000 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
		一年生雑草	は種後出芽前（雑草生育期）	250～500 mL/10a				
		多年生雑草	耕起 7 日前まで（雑草生育期）	500～1000 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回		
	圃場内の周縁部	一年生雑草	収穫 7 日前まで（雑草生育期）	250mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内		
さとうきび（春植え）	－	一年生雑草	耕起 10 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	6 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
水田作物（水稲を除く）	－	一年生雑草	耕起 20～10 日前（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
移植水稲	－	一年生雑草	耕起 20～10 日前（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
			湛水 30～5 日前（雑草生育期）（不耕起栽培）		50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
直播水稲	－	一年生雑草	耕起 20～10 日前（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
			耕起直後～出芽前（雑草生育期）（乾田耕起栽培）	250～1000 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	2 回以内		
		多年生雑草		500mL/10a	50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
		一年生雑草	は種 30 日前～出芽前（雑草生育期）（乾田不耕起栽培）	250～1000 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
		多年生雑草		500mL/10a	50 ﾘｯﾄﾙ/10a			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
水田作物（水田刈跡）	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	1 回
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
水田作物（水田畦畔）	水田畦畔	一年生雑草	収穫 14 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25 ﾘｯﾄﾙ/10a	2 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
水田作物、畑作物（休耕田）	休耕田	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	2 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
茶	－	一年生雑草	摘採 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
牧草	牧野、草地（更新・造成）	一年生雑草	更新・造成の 10 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	2 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
		一年生及び多年生雑草	は種 10 日前～は種当日（耕起整地後：雑草発生揃期）	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
樹木類	－	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	4 回以内	雑草茎葉散布	4 回以内
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3 回以内
		多年生雑草		1000 mL/10a				
		ｽｷﾞﾅ	生育盛期	2000 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a			
林木	造林地（地ごしらえ）	ｽｽｷ、ｻｻ類、ｸｽﾞ等の多年生雑草	生育盛期以降	1000 mL/10a	少量散布 20～30 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	雑草木茎葉散布	3 回以内
		落葉雑かん木						

●注入処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
林木	林地	ｸｽﾞ	春期又は秋期	原液又は2倍液	1～2mL/株		株頭注入処理	
		落葉雑かん木	5～10月		1mL/ｹ所 樹径 ｹ所数 10cm以下 2～3 10～20cm 4～8、 20cm以上 10		立木注入処理	
	林地、放置竹林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本		竹稈注入処理	
畑作物	林地、放置竹林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本		竹稈注入処理	
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	落葉雑かん木	5～10月	原液又は2倍液	1mL/ｹ所 樹径 ｹ所数 10cm以下 2～3、 10～20cm 4～8、 20cm以上 10		立木注入処理	
		雑かん木	伐採直後		切り口全体に十分量を塗布		植栽地を除く樹木等の周辺地に切株塗布処理	

使用上の注意事項ーーー

(17) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かからないように十分注意すること。
(18) 散布液の調製に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用後十分に水洗いすること。
(19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(20) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
(21) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
(22) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

(1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
(3) 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
(4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

(1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
(2) 養魚田周辺での使用には、特に注意すること。
(3) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項ーー

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　21825　号

クサレンジャー®

特長：	●しつこい雑草も根まで枯らす、そのままままける粒剤タイプです。 ●1.8kg入で約54粒、2kg入で約60坪にまけます。

クサレンジャーは丸和バイオケミカル㈱の登録商標です。

有効成分	ブロマシル（化管法第1種）・・・1.0% ＤＣＭＵ（化管法第1種）・・・3.0%	包装	1.8kg×12 2kg×8
性状	淡褐色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ブロマシルを含む農薬の総使用回数	DCMUを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、鉄道等	一年生雑草	雑草発生前	7.5～15 g/㎡	2回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面土壌散布	2回以内	3回以内
			雑草生育初期(草丈20cm以下)	10～20 g/㎡				
		多年生広葉雑草	雑草生育初期(草丈20cm以下)	10～20 g/㎡				
		スギナ	雑草生育初期(草丈20cm以下)	20～40 g/㎡				

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
(2) 植栽地を除く樹木等の周辺地で使用する場合は、薬剤が樹木等の植栽地に流入または飛散するおそれがある場所等では使用しないこと。
(3) 本剤はセイタカアワダチソウ、イタドリ等大型多年生広葉雑草には効果が劣るので、これらの雑草の優占地では使用しないこと。
(4) 本剤が植物の根から吸収されると薬害が発生するので、水田や水田への利用が考えられる用水路等に本剤の流入が想定される場所や、農作物および樹木等有用植物の付近では使用しないこと。
(5) 本剤が流出するような激しい降雨が予想される場合は散布を行わないこと。
(6) 傾斜地や砂質土壌では、本剤の流出による薬害のおそれがあるので使用しないこと。
(7) 本剤を使用した場所やその付近では、有用植物の植付けは行わないこと。
(8) ハウス等の施設内およびその周辺では使用しないこと。
(9) 土壌が乾燥しているときは効果が劣る場合があるので、適度の湿り気のあるときに均一に散布すること。
(10) 水源池、飲料水、灌漑用井戸、養殖池等に本剤の飛散や流入及び浸透が想定される場所では散布を行わないこと。
(11) 散布器具、容器はよく洗浄し、洗浄廃液は直接河川や用水路に流れ込まないように十分注意し、環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
(12) 空袋、空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。

(13) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

(1) 誤食などのないように注意すること。
(2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(3) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
(4) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
(5) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨ーー

(1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
(2) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項ーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　24560　号

フレピオン®シャワー

特長：	●高い殺草効果と長い抑草期間が期待できます。 ●多年生雑草の再生を強く抑制します。 ●多年生雑草のススキ、チガヤ、ササ、クズ等に効果があります。 ●薄めずそのまま使えるシャワータイプです。

フレピオンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートナトリウム塩・・・0.135% テトラピオン・・・0.20%	包装	2.5L×8 5L×4
性状	無色透明水溶性液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	多年生雑草（スギナ、クローバーを除く）	雑草生育期	100～300ml/㎡（原液散布）	2回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3回以内	2回以内

農薬の使用上の注意事項――

(1) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、雑草の草丈が50～100cmの時に散布し、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
(2) 本剤は通常２～１４日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
(3) 処理後６時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
(4) 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
(5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
(6) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意して使用すること。
(7) 空容器は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
(8) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
(9) 本剤の散布に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用するときは、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法――――――――――――――――

（1）人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法
　1）農薬使用者に係る注意事項
　　① 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
　　② 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。

③ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
④ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。
⑤ 子供の手の届かない場所に保管すること。

（2）使用に際して講ずべき被害防止方法使用に際して講ずべき被害防止方法

1）該当なし

生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨ーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　10972　号

グラミン®S

特長：	●泡を抑えた展着剤です。 ●作物表面に均一に行き渡らせる作用を強化しています。

グラミンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル(化管法第1種)・・・15.0% ポリナフチルメタンスルホン酸ナトリウム・・・4.0% ポリオキシエチレン脂肪酸エステル・・・5.0%	包装	100mL×10×6
その他化管法該当成分	ブチルセロソルブ(化管法第1種)・・・19%		
性状	淡黄褐色透明液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用作物と使用方法】

適用農薬名	作物名	使用量	使用方法
有機ﾘﾝ剤､ｶｰﾊﾞﾒｰﾄ剤などの殺虫剤、殺ダニ剤、銅剤、硫黄剤、抗生物質剤などの殺菌剤	稲､麦､キャベツ等の薬液のつきにくい作物	1～3mL/散布液10ﾘｯﾄﾙ	添加
	はくさい､きゅうり､ばれいしょ、果樹等の薬液のつきやすい作物	0.5～1mL/散布液10ﾘｯﾄﾙ	

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(2) 所定量の本剤を直接散布液に加え、十分かきまぜてから散布すること。あるいは本剤を加えた水で散布液を調製してもさしつかえない。
(3) 泡の消えにくい薬剤（ポリオキシン剤など）には多目に加えること。
(4) 本剤は自動車、壁などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――

誤飲などのないよう注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

生防協登録品

ムカデ退治粉剤

特長：	●歩行性の不快害虫専用の駆除剤です。 ●散布中に空中に飛散しにくい重質粉剤です。（重質粉剤とは、一般的な粉剤と比べ1.5～2倍程度の比重の粉剤） ●合成ピレスロイド原体「エトフェンプロックス」とカーバメート系の「カルバリル」が有効成分です。「有機リン成分」を含まないため、有機リン特有なニオイがありません。

有効成分	エトフェンプロックス・・・0.2% カルバリル（化管法1種）・・・2.0%	包装	3kg×4
その他化管法該当成分	－		
性状	類白色粉末	有効年限	－
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

使用に際しての注意

(1) 使用前に必ずラベルをよく読み、十分理解した上で使用すること。
(2) 目的とする効能、効果にそって定められた用法・用量を厳守して使用すること。間違った使い方をすると、効力不足や健康をそこなうことがあります。
(3) 人体に使用しないこと。
(4) 環境を汚染しないために乱用は避けること。又井戸、地下水等の水質を汚染する恐れのある場所、養蜂、蚕、魚や水棲動物等に被害を及ぼす恐れのある場所では使用しないこと。
(5) 小分けするときは、食品用の容器等まちがって使用される恐れのあるものを使用しないこと。
(6) 食品、食器、飼料、おもちゃ、寝具、衣類、愛玩動物、観賞魚、植物、貴重品、美術品、楽器、電気製品等はあらかじめ他へ移すか、薬剤がかからないようにすること。
(7) 病人、特異体質者、妊婦、乳幼児等がいる場所には使用しないこと。

使用中使用後の注意

(1) なるべく身体の露出部を少なくして薬剤を浴びないようにするとともに、できるだけ吸い込まないように注意すること。また、必要に応じて使用後は換気を行うこと。
(2) 散布作業後、あるいは皮膚についたときは、石けんと水でよく洗い、うがいをすること。なお、目に入った場合は、直ちに水でよく洗い流すこと。
(3) 植物にかかると枯れることがありますので注意すること。
(4) 万一、身体に異常を起こした場合や、まちがって薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに本剤の商品名、成分名を医師につげて診療を受けること。

保管上の注意

(1) 食品、食器、飼料等と区別し、直射日光を避け、子供の手の届かない乾燥した涼しい場所に保管すること。
(2) 残った薬剤は必ず保管場所にもどし、容器は確実に封をすること。

その他の注意

(1) 散布に用いた器材はよく手入れをしておくこと。

⑵ 使用済みの空容器等は、みだりに捨てたりせず、適切に処分すること。
⑶ 購入した薬剤は速やかに使用すること。
⑷ 表示に記載した使用方法や注意事項などを守らないで生じた事故についての責任は負うことができません。
⑸ 使用に際してのご不明な点や事故等があった場合は販売元へご連絡下さい。

2023年1月1日現在

登録番号　第　23624　号

ウッドスター®

特長：	●本剤は、極めて少ない注入量で処理時の注入性を向上することにより、注入作業を時間短縮、大掛かりな散布器具や注入容器も不要です。 ●極めて少ない注入量で、樹体への影響を最小限にとどめます。これまで評価した樹木で、薬害が観察された事例はありません。 ●薬液の飛散・環境流出がない樹幹注入剤です。 ●本剤は、処理適期の1回処理で対象害虫の当年発生を抑えます。 ●本剤を各種害虫発生前～発生初期に樹幹注入することにより、速やかに有効成分ジノテフランが葉部へ行き渡り、公園、街路樹等の食葉性吸汁性の主要害虫を中心に優れた殺虫効果が得られます。

ウッドスターはサンケイ化学(株)の登録商標です。

有効成分	ジノテフラン（化管法第1種）・・・8.0%	包装	450ml×2
その他化管法該当成分	－		
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
樹木類（つばき類を除く）	ケムシ類	胸高直径 6cm～10cm ： 8～12ml、 10cm～20cm ： 12～24ml、 20cm～30cm ： 24～36ml、 30cm～40cm ： 36～48ml、 40cm～50cm ： 48～60ml、 50cm～60cm ： 60～72ml、 以降、直径が10cm増す毎に12mlを追加する	幼虫発生前～発生初期 但し新葉展開後	3回以内	樹幹注入	5回以内
アメリカフウ	イラガ類	胸高直径 6cm～10cm ： 8～12ml、 10cm～20cm ： 12～24ml、 20cm～30cm ： 24～36ml、 30cm～40cm ： 36～48ml、 40cm～50cm ： 48～60ml、 50cm～60cm ： 60～72ml、 以降、直径が10cm増す毎に12mlを追加する	幼虫発生前～発生初期 但し新葉展開後	3回以内	樹幹注入	5回以内
さくら	イラガ類	胸高直径 6cm～10cm ： 8～12ml、 10cm～20cm ： 12～24ml、 20cm～30cm ： 24～36ml、 30cm～40cm ： 36～48ml、 40cm～50cm ： 48～60ml、 50cm～60cm ： 60～72ml、 以降、直径が10cm増す毎に12mlを追加する	幼虫発生前～発生初期 但し新葉展開後	3回以内	樹幹注入	5回以内

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ジノテフランを含む 農薬の総使用回数
さくら	クビアカツヤカミキリ	注入部直径 6cm～10cm ： 8～12ml、 10cm～20cm ： 12～24ml、 20cm～30cm ： 24～36ml、 30cm～40cm ： 36～48ml、 40cm～50cm ： 48～60ml、 50cm～60cm ： 60～72ml、 以降、直径が 10cm 増す毎に 12ml を追加する	新葉展開後 ～落葉前まで	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内
つばき類	チャドクガ	注入部直径 6cm～10cm ： 2ml、 10cm～20cm ： 2～12ml、 20cm～30cm ： 12～18ml、 30cm～40cm ： 18～24ml、 40cm～50cm ： 24～30ml、 50cm～60cm ： 30～36ml、 以降、直径が 10cm 増す毎に 6ml を追加する	幼虫発生前 ～発生初期	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内(株元灌注は 2 回以内)
プラタナス	プラタナスグンバイ	注入部直径 6cm～10cm ： 2ml、 10cm～20cm ： 2～12ml、 20cm～30cm ： 12～18ml、 30cm～40cm ： 18～24ml、 40cm～50cm ： 24～30ml、 50cm～60cm ： 30～36ml、 以降、直径が 10cm 増す毎に 6ml を追加する	新葉展開後	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内
ぶな	ブナハバチ	注入部直径 6cm～10cm ： 2ml、 10cm～20cm ： 2～12ml、 20cm～30cm ： 12～18ml、 30cm～40cm ： 18～24ml、 40cm～50cm ： 24～30ml、 50cm～60cm ： 30～36ml、 以降、直径が 10cm 増す毎に 6ml を追加する	新葉展開直前	3 回以内	樹幹 注入	5 回以内

使用上の注意事項――

(1) 他剤との混用はさけること。
(2) 樹幹の胸高直径または注入部直径が適用表に記載のない小径木や樹勢の弱った木、空洞や腐朽がある木、極端な老齢木には使用をさけること。
(3) 適用表の小径木に使用する場合は、専用の注入補助器を挿入し使用、若しくは所定量を 2 孔以上に分散させること。
(4) 対象木が二股以上に分かれている場合は薬剤が問題なく分散する様にそれぞれを 1 本の木と見なして所定量を注入すること。
(5) 薬剤注入孔は、ドリル等を用いて注入部位に斜め下方向に 45 度の角度で開けること。
(6) 薬剤の注入部位は以下の樹種、適用病害虫によって設定すること。
  1) 樹木類（つばき類を除く）、さくら、アメリカフウ、プラタナス、ぶなに使用する場合は、主幹部の地上高 50～100cm を標準とすること。
  2) つばき類に使用する場合は、主幹部の地上高 10～30cm を標準とすること。
  3) クビアカツヤカミキリに使用する場合は、胸高直径により注入量を決定し、注入部位は主幹部の地際部を標準とすること。
  4) クビアカツヤカミキリに使用する場合は、すでに被害が認められている樹（多量のフラスが確認されている樹）は薬剤が分散しにくい場合があるので、クビアカツヤカミキリの食入孔をさけ注入すること。

(7) 薬剤の注入孔（直径、深さ）、注入量は以下の樹種、適用病害虫によって設定すること。
1) 樹木類（つばき類を除く）、さくら、アメリカフウに使用する場合は、直径5～10㎜、深さ6～7㎝の注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり4㎖を注入する。なお、注入孔直径10㎜未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
2) つばき類のチャドクガ、プラタナスグンバイに使用する場合は、直径5～7㎜、深さ6～7㎝の注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり2㎖を注入する。なお、注入孔直径7㎜未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
3) ぶなに使用する場合は、直径5～7㎜、深さ3～5㎝の注入孔を開け、専用注入器を用いて1孔当たり2㎖を注入する。なお、注入孔直径7㎜未満で使用する場合は、必ず専用の注入補助器を注入孔に挿入し使用すること。
(8) 本剤の使用時期は、以下の樹種、適用病害虫によって設定すること。
1) 樹木類（つばき、マツを除く）に使用する場合は、落花直後や展葉初期には薬剤が分散しにくいので、落花終了後の新葉が十分に展開した後に注入すること。
2) 樹木類（マツ）に使用する場合は、注入時期により、樹脂流失による注入不良が発生するおそれがあるので、注入孔を開けたら直ちに薬剤を注入すること。 なお、樹脂流出の異常なマツや、枝葉が変色したマツには使用しないこと。
3) プラタナスに使用する場合は、落葉期や整枝剪定後の展葉初期には薬剤が分散しにくいので、新葉展開後に注入すること。
4) ぶなに使用する場合は、新葉の展開直前に注入することが望ましい。
5) ケムシ類、イラガ類、チャドクガ、クビアカツヤカミキリを対象として使用する場合は、幼虫発生前に薬剤を注入することが望ましい。
(9) 注入孔は癒合剤等で穴を塞ぐなど適切な処理を行うこと。特に地際部で使用した場合は降雨による土壌等の進入のおそれがあるため、必ず処理を行うこと。
(10) 本剤を処理した後に得られる花、葉、果実、種子等は食用に供しないこと。
(11) 本剤を処理した樹木をきのこ類のほだ木など栽培用には使用しないこと。
(12) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
1) 開花期はミツバチ等に影響を及ぼすおそれがあるので、落花終了後に使用すること。
2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
(13) 本剤は自動車、壁等の塗装面、大理石や御影石等に薬剤が付着すると変色するおそれがあるので、こぼさないように注意すること。
(14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は関係機関、関係技術者等の指導を受けること。
(15) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお関係機関、関係技術者等の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――――

街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――――

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく冷涼で子供の手が届かない場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　12455　号

カルホス®乳剤

特長：	●広い殺虫スペクトラムを持ち活性持続効果が優れています。 ●芝のケラ・コガネムシ等の土壌害虫に有効です。

カルホスは保土谷UPL(株)の登録商標です。

有効成分	イソキサチオン（化管法第1種）・・・50.0%	包装	500mL×20
その他化管法該当成分	エチルベンゼン（化管法第1種）・・・12.4% キシレン（化管法第1種）・・・13.5%		
性状	黄赤色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	劇物	危険物	2石-Ⅲ

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
みかん	ゴマダラカミキリ成虫	1500倍	200～700 L/10a	収穫30日前まで	4回以内	散布	4回以内
	カイガラムシ類 ミカンハモグリガ コカクモンハマキ クワゴマダラヒトリ若齢幼虫 ミカンサビダニ	1000～1500倍					
	コナカイガラムシ類 ミノガ類 ケシキスイ類	1000倍					
	カネタタキ	5000倍					
とうもろこし（子実）	アワノメイガ	1000倍	100～300 L/10a	収穫30日前まで	2回以内	散布	2回以内
キャベツ	アオムシ コナガ	1500～2000倍	100～300 L/10a	収穫21日前まで	1回	散布	1回
いちご（仮植床）	コガネムシ類幼虫	1000～1500倍	3L/㎡	植付後	1回	灌注	1回
たまねぎ	タマネギバエ	500～1000倍	育苗箱(約30×60×2.5cm、使用土壌約2L)1箱当り500ml	定植前	1回	土壌灌注	1回
さとうきび	アオドウガネ幼虫 ハリガネムシ類	1000倍	1.8L/㎡	夏季生育期まで	3回以内	土壌灌注	5回以内(種苗浸漬は1回以内、植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)
	ハリガネムシ類		－	植付前	1回	12時間種苗浸漬	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イソキサチオンを含む農薬の総使用回数
茶	コカクモンハマキ チャノホソガ ヨモギエダシャク チャノホコリダニ	1500 倍	200～400 L/10a	摘採 21 日前まで	1 回	散布	1 回
	クワシロカイガラムシ		1000L/10a				
花き類･観葉植物(きく、ガーベラ、シクラメン、アジアンタムを除く)	オンシツコナジラミ若齢幼虫	1000 倍	100～300 L/10a	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
きく	マメハモグリバエ オンシツコナジラミ若齢幼虫	1000 倍	100～300 L/10a	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
ガーベラ	マメハモグリバエ オンシツコナジラミ若齢幼虫	1000 倍	100～300 L/10a	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
樹木類(まさき、もっこく、さくらを除く)	カイガラムシ類 ケムシ類	1000 倍	200～700 L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
まさき	カイガラムシ類 ケムシ類 ユウマダラエダシャク	1000 倍	200～700L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
もっこく	カイガラムシ類 ケムシ類 モッコクハマキ	1000 倍	200～700L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
さくら	カイガラムシ類 ケムシ類	1000 倍	200～700L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
	クビアカツヤカミキリ			成虫発生初期			
たばこ	ジャガイモガ	1000 倍	100～180L/10a	収穫 10 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
	タバコガ ヤサイゾウムシ	1000～1500 倍					
	ヨトウムシ	1500～2000 倍					
芝	チガヤシロオカイガラムシ	1000 倍	0.5L/㎡	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
	スジキリヨトウ シバツトガ		0.5～2L/㎡				
	シバオサゾウムシ		1～2L/㎡				
	ケラ						
	コガネムシ類						
	タマナヤガ幼虫						

使用上の注意事項

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(2) 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用はさけること。
(3) 芝に使用する場合は、土壌面まで濡れるように十分な液量を散布すること。
(4) オンシツコナジラミに対しては若令幼虫には有効であるが、卵、蛹には効果が低いので、若令幼虫の多い時期をねらって約１週間間隔でくり返し散布すること。
(5) いちごのコガネムシ類幼虫に対しては仮植床に植付けた後床面全面にジョロ等によって所定量を均一に灌注すること。
(6) とうもろこしのアワノメイガに対する散布適期は雄穂の出穂期であり、雄穂の出穂前後の２回散布が効果的である。
(7) すぎのスギザイノタマバエ防除に使用する場合は､成虫の発生初期に地上3mの高さの樹幹部に樹皮表面積1m²当り600mLを標準として散布すること。
(8) たまねぎ（育苗箱）に使用する場合、軟弱苗などには薬害を生じるおそれがあるので留意すること。
(9) さとうきびのハリガネムシ類防除に種苗浸漬処理で使用する場合、所定時間浸漬後風乾してから植え付けること。
(10) さとうきびのアオドウガネ幼虫に使用する場合、なるべく若令幼虫の多い時期に合わせること。
(11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
(12) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
　① ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
　② 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用を避けること。
　③ 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めること。
(13) シクラメン、アジアンタムには薬害を生ずるので、かからないように注意して散布すること。
(14) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
(15) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

(1) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
(2) 本剤の解毒剤としては、硫酸アトロピン製剤及びＰＡＭ製剤が有効であると報告されている。
(3) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(4) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
(5) 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
(6) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
(7) ハウスで使用する場合は、換気に十分注意し、薬液がハウス内にこもらないようにすること。使用後は十分に換気し、入室すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

(1) 水産動植物（魚類・甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
(2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項ーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　23330　号

サニーフィールド®MC

特長：
●速効性に優れる殺虫剤です。
●溶媒臭がなく、扱いやすいマイクロカプセル化製剤です。
●樹木類にも使用できる活用幅の広い殺虫剤です。

サニーフィールドは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	500mL×20
その他化管法該当成分	－		
性状	白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	3年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
芝	スジキリヨトウ シバツトガ	2000倍	0.3L/㎡	発生初期	3回以内	散布	3回以内
	ケラ		1L/㎡				
樹木類（つつじ類を除く）	ケムシ類	2000～4000倍	100～700 L/10a	発生初期	6回以内	散布	6回以内
つつじ類	ケムシ類	2000～4000倍	100～700 L/10a	発生初期	6回以内	散布	6回以内
	ツツジグンバイ	1000倍					

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(2) 使用前によく振ってから使用すること。
(3) 蚕に対して長期間強い毒性があるので、薬液の飛散により桑の茎葉を汚染することのないように桑園のある地帯では使用しないこと。
(4) 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別すること。
(5) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
　1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
　2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
(6) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(7) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 誤飲などのないよう注意すること。
(2) 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。使用後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。
(3) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用は避けること。
(2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　24951　号

テラ®フロアブル

特長：
●新規作用機構（殺虫剤分類30）のブロフラニリドが有効成分です。
●残効性に優れています。
●耐雨性に優れ、散布後に降雨があっても影響を受けにくい製剤です。
●シバの幅広い害虫に登録があります。
●樹木類のケムシにも使用できます。
●希釈性に優れた製剤です。
●いやな臭いがほとんどない製剤です。

テラは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ブロフラニリド・・・20%	包装	125ml×4
その他化管法該当成分	―		
性状	淡黄色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ブロフラニリドを含む農薬の総使用回数
芝	スジキリヨトウ シバオサゾウムシ	2000倍	0.05L/㎡	発生初期	3回以内	散布	3回以内
		8000倍	0.2L/㎡				
		20000倍	0.5L/㎡				
	シバツトガ タマナヤガ	1000～2000倍	0.05L/㎡				
		4000～8000倍	0.2L/㎡				
		10000～20000倍	0.5L/㎡				
	ケラ コガネムシ類幼虫	4000倍	0.5L/㎡				
樹木類	ケムシ類	16000倍	200～700 L/10a	発生初期	4回以内	散布	4回以内

農薬の使用上の注意事項――

(1) 使用前によく振ってから使用すること。
(2) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
(4) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(5) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨、使用に際して講ずべき被害防止方法及び解毒方法――――――――――――――――

(1) 農薬使用者に係る注意事項
  1) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
  2) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
(2) 蜜蜂に係る注意事項
  1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
(2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

農薬の貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年5月24日現在

登録番号　第　16758　号

トレボン®乳剤

特長：	●速効的で長い残効性を持っています。 ●野菜・果樹・花の多くの作物と害虫に使用できます。

トレボンは三井化学アグロ(株)の登録商標です。

有効成分	エトフェンプロックス（化管法第1種）・・・20.0%	包装	500mL×20
その他化管法該当成分	キシレン（化管法第1種）・・・33% エチルベンゼン（化管法第1種）・・・45%		
性状	淡黄色澄明可乳化油状液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	2石-III （指定数量1000L（非水溶性））

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用害虫及び使用方法】

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
稲	－	コブノメイガ	1000倍	60～150 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
		ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ イナゴ類	1000～2000倍					
		カメムシ類 イネミズゾウムシ	2000倍					
		ウンカ類	300～600倍	25L/10a				
		ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	300倍					
		カメムシ類	600倍					
麦類	－	ヒメトビウンカ アブラムシ類	2000倍	60～150 L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
きび	－	アカスジカスミカメ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
あわ	－	アワヨトウ アワノメイガ	1000倍	100～300 L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
とうき	－	キアゲハ	1000倍	100～300 L/10a	幼虫発生期	6回以内	散布	6回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
とうもろこし	－	アワノメイガ アワヨトウ ツマジロクサヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
かんきつ	－	コアオハナムグリ ケシキスイ類	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
		ミカンハモグリガ	1000～2000 倍					
		チャノキイロアザミウマ	2000 倍					
マンゴー	－	チャノキイロアザミウマ	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ブロッコリー	－	アオムシ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
キャベツ	－	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
はくさい	－	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
だいこん	－	アオムシ コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ねぎ	－	シロイチモジヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
ﾚﾀｽ	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
すいか	－	アブラムシ類 コナジラミ類 ハスモンヨトウ ヨトウムシ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
きゅうり	－	アブラムシ類 ｺﾅｼﾞﾗﾐ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
メロン	－	アブラムシ類 コナジラミ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
にがうり	－	アブラムシ類 コナジラミ類 ヨトウムシ類 カメムシ類 ウリノメイガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
かぼちゃ	－	コナジラミ類 ウリハムシ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
なす	－	アブラムシ類	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
		コナジラミ類	1000 倍					
トマト	－	コナジラミ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ピーマン	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
オクラ	－	アブラムシ類 カメムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
さやえんどう	－	シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
実えんどう	－	シロイチモジヨトウ ヨトウムシ ウラナミシジミ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
さやいんげん	－	ワタアブラムシ ウラナミシジミ マメノメイガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
えだまめ	－	マメシンクイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ウコンノメイガ ツメクサガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
		ハスモンヨトウ	1000～2000 倍					
未成熟ささげ	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
ばれいしょ	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
かんしょ	－	ナカジロシタバ アブラムシ類 ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さといも（葉柄）	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
やまのいも	－	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
やまのいも（むかご）	－	アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
豆類（種実、ただし、だいず、あずきを除く）	－	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
だいず	－	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ アズキノメイガ ウコンノメイガ ツメクサガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
あずき	－	マメシンクイガ アブラムシ類 シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 フタスジヒメハムシ ハスモンヨトウ ウラナミシジミ ノメイガ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
ほうきぎ	－	ホウキギツツミノガ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
しょうが	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
葉しょうが	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
てんさい	－	ヨトウムシ	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
せんきゅう	－	ウリハムシモドキ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
モロヘイヤ	－	アザミウマ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	1 回	散布	1 回
あしたば	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ふき	－	コナジラミ類 フキノメイガ ヨトウムシ	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
うど	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	根株養成期 但し、収穫 45 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
みつば	－	アブラムシ類	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 21 日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	2 回以内	散布	2 回以内
食用ぎく	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
せり	水田	アブラムシ類	1000 倍	100～150 L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
せり（水耕栽培）	ｶﾞﾗｽ室等の施設	アブラムシ類	1000 倍	100～150 L/10a	収穫 30 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
みずいも	水田	オキナワイナゴモドキ	1000 倍	100～150 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
茶	－	チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	2000 倍	200～400 L/10a	摘採 21 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
たばこ	－	タバコガ ヨトウムシ	2000 倍	25～180 L/10a	収穫 10 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
		アブラムシ類 タバコノミハムシ	1000～2000 倍					
採種用とうき	－	キアゲハ	1000 倍	100～300 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
樹木類（つつじ類、ポインセチア、ソテツを除く）	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農薬の総使用回数
つつじ類	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
		ツツジグンバイ			－			
ポインセチア	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
		コナジラミ類	1000 倍		－			
ソテツ	－	ケムシ類 シャクトリムシ類	4000 倍	100～700 L/10a	幼虫発生期	6 回以内	散布	6 回以内
		オビカレハ	2000 倍					
		クロマダラソテツシジミ	2000～4000 倍					
宿根かすみそう	－	シロイチモジヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	－	6 回以内	散布	6 回以内
		ヨトウムシ	2000 倍					
りんどう	－	ヒラズハナアザミウマ	2000 倍	100～300 L/10a	－	6 回以内	散布	6 回以内
きく	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
カーネーション	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
ゆり	－	アブラムシ類	2000 倍	100～300 L/10a	－	6 回以内	散布	6 回以内
トルコギキョウ	－	ハスモンヨトウ	1000 倍	100～300 L/10a	－	6 回以内	散布	6 回以内
水田作物、畑作物(休耕田)	ﾖｼ、ｵｷﾞ、ｽｽｷ、ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	2000 倍	60～150 L/10a	－	3 回以内	散布	3 回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(2) 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
(3) 散布器具、作業衣等は桑用と必ず区別すること。
(4) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
　1) ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
　2) 関係機関（都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
(5) 本剤のかんきつ、茶での散布は、場合によりハダニ類がふえることがあるので注意すること。
(6) ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若令幼虫期に散布すること。
(7) きくのアブラムシ類への使用にあたっては、一部地域のワタアブラムシでは効果が劣ることがあるので使用をさけること。
(8) 採種用とうきに使用する場合は、根部及び葉を収穫せず、種子の収穫に限ること。

(9) 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
(10) 本剤を本田の水稲に対して希釈倍数300～600倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
(11) 本剤は自動車等の塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
(12) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すること。とくに適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――

(1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
(2) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けること。
(3) 原液は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
(4) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
(5) 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをすること。
(6) 街路、公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 水産動植物（甲殻類、冷水魚）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。養殖池等周辺での使用はさけること。なお、比較的低濃度でも魚が平衡失調を起こすおそれがあるので、十分注意すること。
(2) 散布後は水管理に注意すること。
(3) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――

危険物第四類第二石油類に属するので、火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項――

火気をさけ、直射日光が当らない低温な場所に密栓して保管すること。

2023年2月22日現在

登録番号　第　20403　号

マツガード®

特長：
●有効成分は天然物で、普通物※です。
●殺センチュウ活性が高いので、低薬量でも高い効果が期待できます。
●効果の持続期間が長く、施用後少なくとも6年は効果が安定しています。
●薬量が少なく吸収性が高いので、短時間で注入でき、施工の効率化がはかれます。
●寒冷地でも効果は安定しています。
●容器が小さいので、運搬や使用後の容器の廃棄の費用が少なくて済みます。
●注入孔径が6mmと小さいため松樹体への負担が少なくて済みます。

マツガードは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ミルベメクチン・・・2.0%	包装	60mL×10×8 60mL×10×8（ノズルなし） 180mL×20×2
その他化管法該当成分	―		
性状	淡黄色澄明液体	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	1石-Ⅱ

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
まつ（生立木）	マツノザイセンチュウ	胸高直径(樹幹部) 10～15cm60ml、 15～20cm60～120ml、 20～25cm120～180ml、 25～30cm180～240ml、 30cm以上は直径5cm増すごとに60mlを増量する。	マツノマダラカミキリ成虫発生前まで	1回	樹幹注入	1回
	ハダニ類					

使用上の注意事項

(1) 庭園松は見かけ上胸高直径に比べ材積量が少ないことから、通常の薬量より少なめに注入すること。
(2) 本剤は1回の注入で、マツノザイセンチュウによる被害防止効果が6年間、ハダニ類による被害防止効果が4年間、それぞれ認められているが、樹勢、周辺の被害状況などによって変動するので、再注入時期については林業関係機関、林業技術者などの指導を受けることが望ましい。
(3) 本剤はマツノマダラカミキリ成虫により伝播されるマツノザイセンチュウの侵入、増殖防止を目的とするもので、マツノマダラカミキリには効果がない。
(4) 樹脂流出に異常のある松や、葉が変色した松には治療効果がないので使用しないこと。
(5) 五葉松には薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
(6) 薬剤注入孔は、直径6.0mmのドリルで地上0.3～1m前後の樹幹部に斜め下方に向けて深さ4～5cm程度の孔とし、大きな節や横枝の直下はさけること。
(7) 注入孔を開けたら直ちに容器の先端を差し込み、容器の底に小孔を開けること。加圧注入器を使用する場合は、加圧注入器のノズルをしっかりと注入孔に差し込み、所定の薬液を加圧注入器に移し替えること。薬液が松の形成層に触れないように作業時に十分注意すること。
(8) 一樹に複数のアンプル又は加圧注入器を使用する場合は、注入孔を樹幹の周囲に分散させて注入すること。
(9) 薬剤注入が終了した孔は、雨水や雑菌などが侵入しないようコルク栓、木栓、癒合剤等で蓋をすること。

(10) 注入後の容器は速やかに回収すること。注入終了まで要する時間は樹齢、樹勢によって異なるので注意すること。通常、早いもので１時間以内、遅いものでも３時間程度で完了する。
(11) 作業中、容器の破損を防ぐため取り扱いは慎重に行うこと。
(12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、林業技術者等の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

(1) 本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(2) 使用の際は手袋を着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
(3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
(4) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨ーー

水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるが、この登録に係る使用では問題はない。空容器は必ず回収し、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

危険物第四類第一石油類に属するので火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項ーーー

火気をさけ、直射日光の当らない低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　23772　号

マツガードクイック®

特長：	●有効成分は天然物で、普通物※です。 ●殺センチュウ活性が高いので、低薬量でも高い効果が期待できます。 ●効果の持続期間が長く、施用後少なくとも7年は効果が安定しています。 ●薬量が少なく吸収性が高いので、短時間で注入でき、施工の効率化がはかれます。 ●寒冷地でも効果は安定しています。 ●容器が小さいので、運搬や使用後の容器の廃棄の費用が少なくて済みます。

マツガードクイックは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ミルベメクチン・・・3.0%	包装	40mL×10×8 120mL×20×2
その他化管法該当成分	―		
性状	淡黄色澄明	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	1石-Ⅱ

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミルベメクチンを含む農薬の総使用回数
まつ（生立木）	マツノザイセンチュウ	樹幹部の胸高直径が10～15cmの場合は40ml、15～20cmの場合は40～80ml、20～25cmの場合は80～120ml、25～30cmの場合は120～160ml、30cm以上は胸高直径が5cm増すごとに40mlを増量する。	マツノマダラカミキリ成虫発生前まで	1回	樹幹注入	1回
	ハダニ類					

使用上の注意事項――

(1) 庭園松は見かけ上胸高直径に比べ材積量が少ないことから、通常の薬量より少なめに注入すること。
(2) 本剤は1回の注入で7年間、マツノザイセンチュウによる被害防止効果が認められているが、樹勢、周辺の被害状況などによって変動するので、再注入時期については林業関係機関、林業技術者などの指導を受けることが望ましい。
(3) 本剤はマツノマダラカミキリ成虫により伝播されるマツノザイセンチュウの侵入、増殖防止を目的とするもので、マツノマダラカミキリには効果がない。
(4) 樹脂流出に異常のある松や、葉が変色した松には治療効果がないので使用しないこと。
(5) 五葉松には薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
(6) 薬剤注入孔は、直径6.0mmのドリルで地上0.3～1m前後の樹幹部に斜め下方に向けて深さ4～5cm程度の孔とし、大きな節や横枝の直下はさけること。
(7) 注入孔を開けたら直ちに容器の先端を差し込み、容器の底に小孔を開けること。加圧注入器を使用する場合は、加圧注入器のノズルをしっかりと注入孔に差し込み、所定の薬液を加圧注入器に移し替えること。薬液が松の形成層に触れないように作業時に十分注意すること。
(8) 一樹に複数のアンプル又は加圧注入器を使用する場合は、注入孔を樹幹の周囲に分散させて注入すること。
(9) 薬剤注入が終了した孔は、雨水や雑菌などが侵入しないようコルク栓、木栓、癒合剤等で蓋をすること。
(10) 注入後の容器は速やかに回収すること。注入終了まで要する時間は樹齢、樹勢によって異なるので注意すること。
(11) 作業中、容器の破損を防ぐため取り扱いは慎重に行うこと。

(12) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、林業技術者等の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 誤飲などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
(2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(3) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
(4) 使用の際は手袋を着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
(5) 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や 使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――――

水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるが、この登録に係る使用方法では問題ない。空容器は必ず回収し、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――

危険物第四類第一石油類に属するので火気には十分注意すること。

貯蔵上の注意事項――

火気や直射日光をさけ、食品と区別して低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　24593　号

マツガードフラッシュ®

特長：	●新規作用機構（殺虫剤分類30）のブロフラニリドが有効成分です。 ●残効性に優れています。 ●耐雨性に優れ、散布、乾燥後に降雨があっても影響を受けにくい製剤です。 ●車の塗装や墓石に対して、変色や汚染などの影響がほとんどありません。 ●希釈性に優れた製剤です。 ●いやな臭いがほとんどない製剤です。

マツガードフラッシュは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ブロフラニリド・・・20%	包装	500ml×2
その他化管法該当成分	ー		
性状	淡黄色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	ー

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ブロフラニリドを含む農薬の総使用回数
まつ（生立木）	マツノマダラカミキリ成虫	2000倍	3L/本（樹高10m）	成虫発生直前又は発生初期	4回以内	散布	4回以内

農薬の使用上の注意事項ーーー

生活環境動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
(2) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

農薬の貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　22211　号

ガイア®顆粒水和剤

特長：
●幅広い病害スペクトラムを有しています。
●既存薬剤耐性菌（ベンゾイミダゾール系、ストロビルリン系、EBI剤耐性菌等）に優れた効果を示します。
●予防効果が優れています。

ガイアは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ペンチオピラド（化管法第1種）・・・50.0%	包装	250g×6
その他化管法該当成分	ドデシル硫酸ナトリウム（化管法1種）・・・2.2%		
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
西洋芝（バーミューダグラス）	ダラースポット病	2000倍	0.5L/㎡	発病初期	8回以内	散布	8回以内
	カーブラリア葉枯病						
西洋芝（ベントグラス）	雪腐小粒菌核病	400倍	0.1L/㎡	根雪前	8回以内	散布	8回以内
	ダラースポット病			発病初期			
	ダラースポット病 フェアリーリング病 炭疽病 葉腐病（ブラウンパッチ） デッドスポット病	2000倍	0.5L/㎡	発病初期			
	疑似葉腐病（イエローパッチ）			秋～春期			
	雪腐小粒菌核病			根雪前			
西洋芝（ライグラス）	雪腐小粒菌核病	2000倍	0.5L/㎡	根雪前	8回以内	散布	8回以内
		400倍	0.1L/㎡				
西洋芝（ブルーグラス）	雪腐小粒菌核病	2000倍	0.5L/㎡	根雪前	8回以内	散布	8回以内
		400倍	0.1L/㎡				
日本芝	疑似葉腐病（春はげ症）	2000倍	0.25L/㎡	休眠期前	8回以内	散布	8回以内
	葉腐病（ラージパッチ）			発病初期			
	カーブラリア葉枯病		0.25～0.5 L/㎡				
	フェアリーリング病 さび病 ネクロティックリングスポット病		0.5L/㎡				
				秋～春期			

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
日本芝 （こうらいしば）	ダラースポット病	2000 倍	0.5L/㎡	発病初期	8 回以内	散布	8 回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切ること。
(2) 散布液調製後はできるだけ速やかに散布すること。
(3) 散布調製液の際は、水をかきまぜながら本剤の所定量を徐々に加えること。
(4) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
(5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
(6) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――

(1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、散布液調製時及び散布の際は保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(2) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係がない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　22170　号　肥料登録番号：生第88820号

サンブレイク®液剤

特長：
●芝のピシウム病、赤焼病に有効です。
●吸収性の高い亜りん酸、水溶性加里を配合した肥料入り農薬です。
●根の生育も促進します。

サンブレイクは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ヒドロキシイソキサゾールカリウム塩・・・22.84% （ヒドロキシイソキサゾール・・・16.5%）	包装	500mL×20
肥料成分	水溶性りん酸…18.0% 水溶性加里…20.0%		
性状	黄赤色澄明水溶性液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ヒドロキシイソキサゾールを含む農薬の総使用回数
西洋芝 (ベントグラス)	ピシウム病	50～100倍	0.1L/㎡	発病初期	4回以内	散布	6回以内
	ピシウム病	250～500倍	0.5L/㎡				
	赤焼病						
	根の生育促進			生育期 (6月～8月)	3回		
日本芝 (こうらいしば)	ピシウム病	250～500倍	0.5L/㎡	発病初期	4回以内	散布	6回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用前によく振ってから使用すること。
(2) 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時制御されることがあるので、濃度や使用量を誤らないように注意すること。
(3) 根の生育促進に使用する場合は、生育期（6月～8月）に1ヶ月間隔で、3回散布すること。
(4) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――

(1) 有毒ガスが発生するので、石灰硫黄合剤との混合は絶対にしないこと。
(2) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
(3) かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。

(4) 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――――

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、食品と区別し、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年2月22日現在

登録番号　第　10331　号

タチガレン®液剤

特長：
●芝（ベントグラス）の赤焼病、カーネーションの立枯病に効果があります。
●稲の苗立枯病を的確に防ぎ、根の生育促進、ムレ苗防止など健苗が得られます。
●播種時の処理に加えて、育苗中のかん注により移植時の発根及び活着促進が一層的確に発揮されます。

タチガレンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ヒドロキシイソキサゾール・・・30.0%	包装	500ml×20
性状	黄褐色液体	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	−

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名/使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ヒドロキシイソキサゾールを含む農薬の総使用回数
稲（箱育苗）	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止	500～1000倍	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り500mL	は種時又は発芽後	2回以内	土壌灌注又は灌注	3回以内（移植前の土壌混和は1回以内、移植前の土壌灌注及び灌注は合計2回以内）
	砂壌土、高温、低温又は高密度は種苗における水稲用除草剤起因の生育抑制軽減	500倍		移植5日前～移植前日	1回	灌注	
	ごま葉枯病			は種時		土壌灌注	
	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌) 根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 ムレ苗防止	1000倍	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り1L	は種時又は発芽後	2回以内	土壌灌注又は灌注	
	ごま葉枯病			は種時	1回	土壌灌注	
稲(折衷苗代)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌)	500倍	1L/㎡	は種直後又は発芽後	2回以内	土壌灌注又は灌注	
稲(畑苗代)	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌)	1000倍	3L/㎡	は種直後又は発芽後	2回以内	土壌灌注又は灌注	
	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進			は種直後	1回	土壌灌注	

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサゾールを含む農薬の総使用回数
キャベツ	ピシウム腐敗病	1000 倍	ｾﾙ成型育苗ﾄﾚｲ 1 箱または ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ 1 冊 (30×60cm・ 使用土壌 約 3.0～4.0L)当 り 0.5L	出芽時 ～育苗期	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
レタス	バーティシリウム萎凋病	1000 倍	250mL/株	定植時	1 回	株元灌注	1 回
すいか	苗立枯病	500～ 1000 倍	3L/㎡	は種 直後	1 回	苗床灌注	2 回以内 (育苗土壌への混和は 1 回以内、苗床への灌注は 1 回以内)
きゅうり	苗立枯病(フザリウム菌) 苗立枯病(ピシウム菌)	500～ 1000 倍	3L/㎡	は種 直後	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
メロン	苗立枯病(ピシウム菌)	500 倍	3L/㎡	は種時	1 回	全面土壌 灌注	1 回
ほうれん そう	立枯病	500～ 1000 倍	3L/㎡	は種時	1 回	土壌灌注	1 回
		1500～ 3000 倍	9L/㎡				
		50～100 倍	300mL/㎡	は種前		全面散布 後土壌混 和	
オクラ	苗立枯病(ピシウム菌)	500～ 1000 倍	50～200mL/株	は種時～ 発芽初期	2 回 以内	植穴又は 株元灌注	2 回以内
さやいん げん	白絹病	500 倍	1L/㎡	収穫 14 日 前まで	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
さやえん どう	根腐病	500～ 1000 倍	3L/㎡	は種後及 び生育期 但し、は 種後 1～2 か月後ま で	3 回 以内	は種穴又 は株元に 土壌灌注	3 回以内
実えんど う	立枯病	500 倍	200mL/株	は種後及 び生育期 但し、は種 後 1～2 か 月後まで	3 回 以内	は種穴又 は株元に 土壌灌注	3 回以内

作物名	適用病害虫名/ 使用目的	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	ヒドロキシイソキサゾールを含む農薬の総使用回数
未成熟そらまめ	立枯病	500 倍	200mL/株	は種後及び生育期 但し、収穫 30 日前まで	3 回 以内	は種穴又は株元に土壌灌注	3 回以内
てんさい	苗立枯病	500～ 1000 倍	ﾍﾟｰﾊﾟｰﾎﾟｯﾄ 1 冊当り 1L	は種時～ 生育初期 但し、収穫 120 日前まで	3 回 以内	灌注	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、育苗土壌への混和は 1 回以内、灌注は 3 回以内)
			3L/㎡				
みずな	立枯病	500 倍	3L/㎡	は種時	1 回	土壌灌注	1 回
みぶな	立枯病	1000 倍	3L/㎡	は種時	1 回	土壌灌注	1 回
みつば	根腐病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前まで ただし、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	1 回	散布	1 回
いちご	苗の発根促進 活着促進	1000 倍	－	挿し芽 採取時	1 回	30 分間挿し芽浸漬	2 回以内 (挿し芽採取時の浸漬処理は 1 回以内、挿し芽時の土壌灌注は 1 回以内)
			1.5L/育苗培養土 5L	挿し芽時		土壌灌注	
たばこ	舞病	1000 倍	100mL/株	移植時 及び 大土寄時	2 回 以内	株元灌注	2 回以内
カーネーション	立枯病	500 倍	3L/㎡	定植時 及び 活着後	3 回 以内	土壌灌注	3 回以内
アイリス	白絹病	1000～ 2000 倍	3L/㎡	定植時 及び 生育期	6 回 以内	土壌灌注	6 回以内
きく	発根促進	1000 倍	5～10L/㎡	挿し芽直後	1 回	土壌灌注	1 回
林木 (苗木)	立枯病	500～ 1000 倍	3L/㎡	は種覆土直後	1 回	苗床全面灌注	1 回
西洋芝 (ベントグラス)	赤焼病	500～ 1000 倍	2L/㎡	発病 初期	4 回 以内	散布	6 回以内
	ﾋﾟｼｳﾑ病	250～ 500 倍	0.5L/㎡				

使用上の注意事項

(1) 使用量が多すぎたり濃度が高すぎた時、場合によっては初期生育が一時抑制されることがあるので、濃度や使用量を誤らないように注意すること。
(2) 稲に使用する場合は次の事項に注意すること。
  1) 育苗中の苗立枯病のまん延防止には発芽期以降に追加灌注すること。
  2) ムレ苗防止に使用する場合、本剤は育苗中の低温による根の吸水低下や高温による蒸散増加など、吸水と蒸散の不均衡によって起こるムレ苗（生理的な急性萎凋障害）に対して有効であるので、このようなムレ苗の発生する地域で使用すること。
  3) 砂壌土、高温（最高気温30℃以上）、低温（日平均15℃以下）又は高密度は種苗における水稲用除草剤起因の生育抑制軽減は、除草剤分類（RAC コード）2 又は15 の有効成分を含む水稲用除草剤で効果を確認している。
(3) 本剤をキャベツに使用する場合は、使用液量が多すぎたり濃度が高すぎると薬害（生育抑制）を生じやすいので、所定の使用液量、濃度を必ず守ること。
(4) 本剤をオクラに使用する場合は、希釈液を乾燥した土壌に灌注すると薬害（生育抑制）を生じるおそれがあるので、は種前には十分な灌水を行うこと。
(5) 本剤をカーネーション立枯病防除に使用する場合は、定植時に所定希釈液を1 ㎡当り 3L の割合でジョロなどで均一に土壌灌注すること。さらに活着後、発生状況に応じて適宜灌注処理を行なうこと。
(6) アイリスの白絹病防除に使用する場合は定植時に所定濃度の希釈液を1 ㎡当り 3L の割合でジョロなどで均一に土壌灌注し、その後20～30 日間隔で1～2 回灌注処理すること。
(7) さやえんどうの根ぐされ病防除に使用する場合、発生後の灌注は効果がないので、予防的には播種後1 週間以内に所定希釈液を1 ㎡当り 3L 灌注し、更に1～2 か月後にかけて1～2 回株元灌注処理すること。
(8) 空容器はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
(9) 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

(1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(2) 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、薬液調製時及び使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して、薬剤が皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
(3) かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
(4) 公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　20695　号

パッチコロン®水和剤

特長：	●芝の葉腐病、ダラースポット病に高い効果を示します。本剤はリゾクトニアの他、担子菌類及び不完全菌類の多くに、抗菌活性を示します。 ●殺菌作用が強く、植物への浸達性に優れているので、治療効果も発揮します。 ●根部より吸収されて、すばやく地上部へ移行する性質がありますので、散布時未展開だった上位葉の発病も抑えます。 ●日本芝はもちろん、寒地型芝にも安心して使用できます。通常の使用量では、薬害の心配はありません。

パッチコロンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	シメコナゾール・・・20.0%	包装	250g×20
その他化管法該当成分	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基C＝10～14及びその混合物）（化管法1種）・・・1.2%		
性状	類白色水和性粉末45μm以下	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シメコナゾールを含む農薬の総使用回数
日本芝	葉腐病（ラージパッチ）	4000倍	0.5L/㎡	発病初期	4回以内	散布	4回以内
		2000倍	0.25～0.5L/㎡				
		800倍	0.2L/㎡				
	疑似葉腐病（春はげ症）	2000倍	0.25L/㎡	休眠期前			
		800倍	0.2L/㎡				
	カーブラリア葉枯病	800倍	0.2L/㎡	発病初期			
	立枯病（ゾイシアデクライン）						
西洋芝（ベントグラス）	葉腐病（ブラウンパッチ）	2000倍	0.25L/㎡	発病初期	4回以内	散布	4回以内
	ダラースポット病						
	炭疽病		0.5L/㎡				
樹木類	うどんこ病	2000倍	200～700 L/10a	発病前～発病初期	5回以内	散布	5回以内

使用上の注意事項ーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　23428　号

ユニゾン®水和剤

特長：	●藻類とグリーンの重要病害を同時に防除 やっかいな藻類と病害(炭疽病、ブラウンパッチなど）をまとめて防除可能です。 ●作用性が異なる2成分の組み合わせで耐性菌対策 異なる2つの成分が作用するため、耐性菌出現のリスクが少なくローテーション散布に適します。 ●芝に対する高い安全性 ベントグラスやコウライシバに対する影響が少ないことが確認されています。

ユニゾンはクミアイ化学工業(株）の登録商標です。

有効成分	ペンチオピラド(化管法第1種）・・・4.25% マンゼブ(化管法第1種）・・・65.0%	包装	1kg×12
その他化管法該当成分	ヘキサメチレンテトラミン(化管法1種）…1.6%		
性状	淡黄色水和性粉末45μm以下	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数	マンゼブを含む農薬の総使用回数
西洋芝(ベントグラス)	藻類	167倍(薬量として3g/㎡)	0.5 L/㎡	藻類発生初期	3回以内	散布	8回以内	3回以内
	葉腐病(ブラウンパッチ) 炭疽病 ダラースポット病 ピシウム病			発病初期				
日本芝	カーブラリア葉枯病	167倍(薬量として3g/㎡)	0.5 L/㎡	発病初期	3回以内	散布	8回以内	3回以内
日本芝(こうらいしば)	藻類	167倍(薬量として3g/㎡)	0.5 L/㎡	藻類発生初期	3回以内	散布	8回以内	3回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(2) 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、本剤の過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤との輪番で使用すること。
(3) 藻類が著しく繁茂した状態では効果が劣ることがあるので、時期を失しないように散布すること。
(4) 西洋芝（ベントグラス）に使用する場合、夏期高温時に連用散布すると黄変などの薬害が生じるおそれがあるので注意すること。
(5) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。

⑹ 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

⑴ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
⑵ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
⑶ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
⑷ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
⑸ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
⑹ 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨ーー

⑴ 水産動植物（魚類、藻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
⑵ 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使い切ること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項ーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　23994　号

MIC®エンドタールK液剤

特長：	●生育中のスズメノカタビラに効果があります。 ●効果の発現が早く、土壌中ですみやかに分解します。 ●散布してから4、5日後にはオーバーシーディングができます。 ●コアリングの直後にも安心して使用できます。

MICは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	エンドタール二カリウム塩・・・2.11% (エンドタール・・・1.50%)	包装	2L×6
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	エンドタールを含む農薬の総使用回数
日本芝 (こうらいしば)	スズメノカタビラ	芝休眠期 (雑草生育期)	8～12 L/10a	200L/10a	3回以内	散布	6回以内
西洋芝 (ブルーグラス)	スズメノカタビラ	芝生育期 (雑草生育期)	2～6 L/10a	200L/10a	6回以内	散布	6回以内
西洋芝 (ベントグラス)	スズメノカタビラ	春夏期芝生育期 (雑草生育期)	1～2 L/10a	100L/10a	6回以内	散布	6回以内

使用上の注意事項――

(1) 本剤は、生育期のスズメノカタビラに有効なので、雑草の発生後に均一に散布すること。
(2) 本剤使用の際は、展着剤を加用すると効果的である。
(3) 散布直後の多量の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布すること。
(4) 張り芝直後又は播種後6ヶ月未満の芝地、干害、異常低温、高温障害を受けた芝草への散布は、薬害を生じる恐れがあるので使用しないこと。
(5) ブルーグラスで使用する場合は次の事項に注意すること。
　1) スズメノカタビラを徐々に防除するためには、所定量の範囲内の低薬量で数回散布すると有効である。
　2) 本剤の使用により芝草に黄変、葉先枯れなどの薬害を生じることがあるが、やがて回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
　3) 芝草に薬害を生じた場合、2回目以降の散布は薬害症状が回復した後に行うこと。
　4) 気温27°C以上の高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
　5) 本剤は砂質土の芝地では薬害を生じる恐れがあるので、所定量の範囲内の低薬量で使用すること。
(6) ベントグラスで使用する場合は次の事項に注意すること。
　1) スズメノカタビラを徐々に防除するため、所定量の範囲内の薬量で数回散布すること。
　2) 本剤の使用により芝草に黄変、葉先枯れなどの薬害を生じることがあるが、やがて回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
　3) 芝草に薬害を生じた場合、2回目以降の散布は薬害症状が回復した後に行うこと。
(7) 周辺作物や有用植物に薬液が飛散すると薬害を生じる恐れがあるので、飛散しないように注意して散布すること。

(8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
(9) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
2) 関係機関（ 都道府県の農薬指導部局や地域の農業団体等） に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
(10) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
(2) 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
(3) 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――――

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　19929　号

クサクリーン®液剤

特長：	●葉や茎から吸収され、雑草体内に移行し、根まで枯れる除草剤です。 ●スギナ、セイタカアワダチソウ、イタドリ、ヤブガラシ、ススキ、ササなどの雑草、かん木を根まで枯らします。

クサクリーンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートイソプロピルアミン塩（化管法第1種）・・・41.0%	包装	1L×12 5L×4
性状	淡黄色澄明水溶性液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	–

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用雑草の範囲及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
果樹類（かんきつ、パイナップルを除く）	–	一年生雑草	収穫7日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 リットル/10a 少量散布 25～50 リットル/10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
かんきつ	–	一年生雑草	収穫7日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 リットル/10a 少量散布 25～50 リットル/10a	3回以内	雑草茎葉散布	5回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
野菜類（えだまめ、キャベツ、はつかだいこん、だいこん、とうがらし類、にんじん、ピーマン、ねぎ、たまねぎ、アスパラガス、オリーブ(葉)、きゅうり、たらのき、トマト、なす、びわ(葉)、ほうれんそう、レタス、薬用にんじん、豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)、かんしょを除く）	–	一年生雑草	耕起又は定植7日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 リットル/10a 少量散布2 5～50 リットル/10a、5～15 リットル/10a	1回	雑草茎葉散布	1回

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
かんしょ	－	一年生雑草	耕起又は挿苗７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	２回以内
豆類（種実、ただし、だいず、らっかせいを除く）	－	一年生雑草	は種７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	２回以内	雑草茎葉散布	２回以内
だいず	－	一年生雑草	は種７日前まで（雑草生育期） は種後出芽前まで（雑草生育期） 畦間処理：雑草生育期 但し、収穫前日まで	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a 通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	２回以内	雑草茎葉散布	４回以内
えだまめ	－	一年生雑草	は種７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
とうがらし類	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	２回以内
にんじん	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	２回以内
ピーマン	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	２回以内
アスパラガス	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
オリーブ（葉）	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
きゅうり	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
しゃくやく（薬用）	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
たらのき	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
トマト	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
なす	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
びわ(葉)	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
ほうれんそう	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内
レタス	－	一年生雑草	耕起又は定植７日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	１回	雑草茎葉散布	３回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
薬用にんじん	－	一年生雑草	耕起又は定植 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	10 回以内（1 年間に 2 回以内）
キャベツ	－	一年生雑草	耕起又は定植 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	1 回
だいこん	－	一年生雑草	耕起又は は種 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
はつかだいこん	－	一年生雑草	耕起又は は種 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	1 回
たまねぎ	－	一年生雑草	耕起又は定植 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
			定植後畦間処理 但し、収穫 30 日前まで（雑草生育期）		通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
ねぎ	－	一年生雑草	耕起又は定植 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
			定植後畦間処理 但し、収穫 30 日前まで（雑草生育期）		通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
麦類（小麦を除く）	－	一年生雑草	耕起 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	3 回以内
			は種後出芽前（雑草生育期）		通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
小麦	－	多年生イネ科雑草	耕起前又は は種前まで（雑草生育期）	250～1000 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
		一年生雑草	は種後出芽前（雑草生育期）	250～500 mL/10a				
		多年生雑草	耕起 7 日前まで（雑草生育期）	500～1000 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回		
	圃場内の周縁部	一年生雑草	収穫 7 日前まで（雑草生育期）	250mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内		
さとうきび（春植え）	－	一年生雑草	耕起 10 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	6 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
水田作物（水稲を除く）	－	一年生雑草	耕起 20～10 日前（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
移植水稲	－	一年生雑草	耕起 20～10 日前（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
			湛水 30～5 日前（雑草生育期）（不耕起栽培）		50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
直播水稲	－	一年生雑草	耕起 20～10 日前（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
			耕起直後～出芽前（雑草生育期）（乾田耕起栽培）	250～1000 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	2 回以内		
		多年生雑草		500mL/10a	50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
		一年生雑草	は種 30 日前～出芽前（雑草生育期）（乾田不耕起栽培）	250～1000 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
		多年生雑草		500mL/10a	50 ﾘｯﾄﾙ/10a			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量（薬量）	使用量（希釈水量）	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
水田作物（水田刈跡）	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	1 回
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
水田作物（水田畦畔）	水田畦畔	一年生雑草	収穫 14 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25 ﾘｯﾄﾙ/10a	2 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
水田作物、畑作物（休耕田）	休耕田	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	2 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
茶	－	一年生雑草	摘採 7 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	1 回	雑草茎葉散布	2 回以内
牧草	牧野、草地（更新・造成）	一年生雑草	更新・造成の 10 日前まで（雑草生育期）	250～500 mL/10a	通常散布 50 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	2 回以内	雑草茎葉散布	3 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
		一年生及び多年生雑草	は種 10 日前～は種当日（耕起整地後：雑草発生揃期）	250～500 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a			
樹木類	－	一年生雑草	雑草生育期	250～500 mL/10a	通常散布 50～100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a	4 回以内	雑草茎葉散布	4 回以内
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500mL/10a	通常散布 100 ﾘｯﾄﾙ/10a 少量散布 25 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3 回以内
		多年生雑草		1000 mL/10a				
		ｽｷﾞﾅ	生育盛期	2000 mL/10a	少量散布 25～50 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a			
林木	造林地（地ごしらえ）	ｽｽｷ、ｻｻ類、ｸｽﾞ等の多年生雑草	生育盛期以降	1000 mL/10a	少量散布 20～30 ﾘｯﾄﾙ/10a、5～15 ﾘｯﾄﾙ/10a	3 回以内	雑草木茎葉散布	3 回以内
		落葉雑かん木						

●注入処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
林木	林地	ｸｽﾞ	春期又は秋期	原液又は2倍液	1～2mL/株		株頭注入処理	
		落葉雑かん木	5～10月		1mL/ｹ所 樹径 ｹ所数 10cm以下 2～3 10～20cm 4～8、 20cm以上 10		立木注入処理	
	林地、放置竹林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本		竹稈注入処理	
畑作物	林地、放置竹林、畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～15mL/本		竹稈注入処理	
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	落葉雑かん木	5～10月	原液又は2倍液	1mL/ｹ所 樹径 ｹ所数 10cm以下 2～3、 10～20cm 4～8、 20cm以上 10		立木注入処理	
		雑かん木	伐採直後		切り口全体に十分量を塗布		植栽地を除く樹木等の周辺地に切株塗布処理	

使用上の注意事項ーーー

(17) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かからないように十分注意すること。
(18) 散布液の調製に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用後十分に水洗いすること。
(19) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(20) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
(21) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
(22) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

(1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
(2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
(3) 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
(4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

(1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養殖池等周辺での使用は避けること。
(2) 養魚田周辺での使用には、特に注意すること。
(3) 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項ーーー

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　20393　号

グラッチェ®顆粒水和剤

特長：
高い除草効果があります。
●一年生、多年生の広葉雑草・カヤツリグサ科雑草まで幅広いスペクトラムをもっています。
●チドメグサ・ヒメクグ・ハマスゲ等の難防除雑草に対して高い効果があります。
●雑草発生前から発生初期まで幅広い処理適期をもっています。
芝に対して高い安全性があります。
●西洋芝、日本芝を問わず使用可能です。
●フェアウェイ、ラフ、グリーン、ティー等の全ての場面に対応できます。
●張り付け直後の芝にも高い安全性があります。
●散布液調製時の粉立ちや、散布後の芝生の汚れが少ない使いやすい製剤です。

グラッチェはバイエルグループの登録商標です。

有効成分	エトキシスルフロン・・・60.0%	包装	100g×6
性状	褐色水和性細粒	有効年限	4年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	エトキシスルフロンを含む農薬の総使用回数
日本芝	一年生広葉雑草	雑草発生前（芝生育期）	15～30 g/10a	200～300 L/10a	3回以内	散布	3回以内
	一年生広葉雑草 多年生広葉雑草	雑草生育初期（3葉期まで）（芝生育期）	30～60 g/10a				
	ヒメクグ ハマスゲ		45～75 g/10a				
西洋芝（ベントグラス）	一年生及び多年生広葉雑草	雑草生育初期（3葉期まで）（芝生育期）	30～60 g/10a	200～300 L/10a	3回以内	散布	3回以内
	ヒメクグ ハマスゲ		45～75 g/10a				
西洋芝（ブルーグラス）	一年生及び多年生広葉雑草	雑草生育初期（3葉期まで）（芝生育期）	30～60 g/10a	200～300 L/10a	3回以内	散布	3回以内
	ヒメクグ ハマスゲ		45～75 g/10a				

使用上の注意事項――

(1) 本剤は、雑草の発生前から生育初期に有効なので時期を失しないように散布すること。
(2) 本剤はイネ科雑草には効果が劣るので、イネ科雑草の優先する圃場ではこれに有効な薬剤と組み合わせて使用すること。
(3) 周辺の作物にかかると薬害が生じるので散布の際は芝生の中にある草花や花木、畑作物にかからないようその付近での散布はさけること。
(4) 本剤の散布に用いた機具類は、使用後できるだけ速く水で十分洗っておき、他の用途に使用する場合薬害の原因になら

ぬよう注意すること。
⑸ 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
⑹ 容器、空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――――

⑴ 誤飲、誤食などのないよう注意すること。
⑵ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗いし、眼科医の手当を受けること。使用後は洗眼すること。
⑶ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用し、散布液を浴びたり吸い込んだりしないように注意すること。
⑷ 公園等で使用する場合は散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係がない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――――

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。 また、空容器、空袋等は、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　9898　号

フレノック®液剤30

特長：
●ササ、ススキ、ヨシ（アシ）などにすぐれた効果があります。
●薬量によっては長い伸長抑制効果もあります。
●目や皮膚を刺激せず、いやな臭いもありません。

フレノックは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)登録商標です。

有効成分	テトラピオン（化管法第1種）・・・30.0%	包装	10L×1
性状	紫色透明液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
林木	林地	ススキ	ススキの発芽直前～発芽初期	10倍	50ml/株径30～50cm（但し、30L/10aまで）	1回	本剤を水で10倍に希釈し株の中央部に散布する。(株処理)	1回
開墾後に栽培する樹木類	開墾地	ススキ	ススキの発芽直前～発芽初期					
すぎ(地ごしらえ、下刈り)	－	ススキ	ススキの発芽直前～発芽初期		50ml/株径30～50cm（但し、30L/10aまで）	1回	本剤を水で10倍に希釈し株の中央部に散布する。(株処理)	2回以内
ひのき(地ごしらえ、下刈り)	－	ススキ	ススキの発芽直前～発芽初期					

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生イネ科雑草	雑草発生前～生育期	1.5～3 L/10a	50～200L/10a	2回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布又は全面土壌散布	2回以内
		ハマスゲ	生育期	1.5～3 L/10a				
		ススキ ササ	秋冬期～生育初期	1.5～3 L/10a				
		ヨシ	出芽前～生育期	3～5 L/10a				

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。

(2) すぎ、ひのき以外の造林地では使用しないこと。
(3) すぎの造林地では葉にかからないように散布すること。ススキの株数が多い場合（3000 株/ha 以上）でも処理薬量は原液で 30L/ha を越えないようにし、また、すぎの周囲半径 60cm 以内にススキ株がいくつあっても原液で 3mL 以上は散布しないこと。
(4) 薬剤量は直径 30～50cm のススキの株を基準とした場合 10 倍液を 50mL/株が適量であるが、株の大きさにより適宜増減すること。
(5) あかまつには強く作用するので付近にある場合にはかからないように十分注意して散布すること。
(6) ひのきの造林地では薬害のおそれがほとんどないが、なるべく葉にかからないようにし、すぎの場合に準じて処理すること。
(7) ススキ、ササに対する処理最適時期は出芽前～出芽初期であるので、この時期をはずさないように処理すること。この時期より処理が遅れた場合、その年には外観上効果が認められないこともあるが、翌年の出芽は抑制する。効果がすぐ見られないからといって繰返し追加散布はしないこと。
(8) 一年生イネ科雑草に使用する場合、処理適期は雑草の発生前から雑草生育期（草丈 30cm 以下） であり、効果完成までに日数を要するので、誤って再散布しないこと。また、広葉雑草が優先する場所では広葉雑草に有効な剤と組み合わせて使用すること。
(9) 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
(10) 場合により造林木の下葉に黄褐変が認められることがあるが、上長成長への影響は認められない。
(11) 本剤を林地の地ごしらえ、または開墾地に使用し、その年に栽植する場合は、散布後 3 ケ月以内には植付け、は種などを行なわないようにすること。
(12) 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。
(13) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
(14) 本剤の散布に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すると共に、初めて使用するときは、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(15) 公園、駐車場等に使用する場合は、本剤を希釈後、よくかきまぜてから散布すること。雑草生育期に散布する場合、希釈水量は対象雑草の種類、草丈、繁茂密度に応じて加減すること。
(16) 水源池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
(17) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器、空瓶等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――――

(1) 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
(2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
(3) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
(4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――――――

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　10783　号

フレノック®粒剤10

特長：
●ササ、ススキ、チガヤにすぐれた効果があります。
●薬量によっては長い伸長抑制効果もあります。
●眼や皮膚を刺激せず、いやな臭いもありません。

フレノックは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)登録商標です。

有効成分	テトラピオン（化管法第1種）・・・10.0%	包装	2.5kg×6
性状	類白色細粒	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
開墾後に栽培する樹木類	開墾地	ススキ	秋冬期～出芽初期	ススキ1株(平均株径30cm基準)当り15g(但し、10kg/10aまで)	1回	ｽﾎﾟｯﾄ処理散布	1回
		ササ		3～5kg/10a		全面均一散布	
すぎ(地ごしらえ、下刈り)	－	ススキ	秋冬期～出芽初期	ススキ1株(平均株径30cm基準)当り15g(但し、10kg/10aまで)	1回	ｽﾎﾟｯﾄ処理散布	2回以内
		ササ		3～5kg/10a		全面均一散布	
ひのき(地ごしらえ、下刈り)	－	ススキ	秋冬期～出芽初期	ススキ1株(平均株径30cm基準)当り15g(但し、10kg/10aまで)	1回	ｽﾎﾟｯﾄ処理散布	2回以内
		ササ		3～5kg/10a		全面均一散布	
とどまつ(下刈り)	－	ササ	秋冬期(但し土壌凍結前)	2～4kg/10a	1回	全面均一散布	1回
からまつ(下刈り)	－	ススキ ササ	秋冬期(但し土壌凍結前)	3～4kg/10a	1回	全面均一散布	1回
ぶな(地ごしらえ、下刈り)	－	ササ	秋冬期(但し土壌凍結前)	2～3kg/10a	1回	全面均一散布	1回

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	チガヤ	生育期	10～20kg/10a	1回	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面均一散布	2回以内
		ススキ ササ	秋冬期～出芽初期	5～10kg/10a			
		一年生イネ科雑草	雑草発生前～生育期	2～10kg/10a	2回以内		

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
(2) スポット処理の場合、ススキの株数が多い場合（3,000株/ha以上） でも、処理薬量は100kg/haを越えないようにし、また造林木の周囲半径60cm以内にススキ株がいくつあっても、10g以上は散布しないこと。
(3) 開こん地、杉、ひのきに使用する場合、処理適期は秋冬期から雑草の出芽初期であり、伸長期になると効果が劣るが、翌年の出芽は抑制するので、効果が劣るからといって、くり返しや追加の散布はしないこと。
(4) 一年生イネ科雑草に使用する場合、処理適期は雑草の発生前から雑草生育期（草丈20cm以下） であり、効果完成までに日数を要するので、誤って再散布しないこと。また、広葉雑草が優先する場所では広葉雑草に有効な剤と組み合わせて使用すること。
(5) 本剤は水によくとけ、降雨時、積雪時、または融雪時には流亡による効果低減のおそれがあるので、使用をさけること。
(6) 本剤の飛散あるいは流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
(7) 場合により、造林木の下葉に黄褐変が認められることがあっても、上長成長には影響が見られない。
(8) 林地の地ごしらえ、または開墾地に使用した場合、散布後３ケ月以内は樹木の植付け、は種などをさけること。
(9) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
(10) とどまつ、からまつ、ぶなに使用する場合、春夏期には薬害を生じやすいので、造林木の根の吸収が低下する落葉期から土壌が凍結または降雪期までに散布すること。砂質土で薬剤の流亡が生じやすい地域では、所定量の範囲内で多目の薬量で使用すること。
(11) からまつに使用する場合、透水性不良の土壌では少なめ（3kg）に使用すること。
(12) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
(13) 水源池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――

(1) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当をうけること。
(2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
(3) 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
(4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項ーーー

2023年1月1日現在

登録番号　第　23984　号

フレピオン®L 液剤

特長：
●高い殺草効果と長い抑草期間が期待できます。
●多年生雑草の再生を強く抑制します。
●多年生雑草のススキ、チガヤ、ササ、クズ等に効果があります。

フレピオンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	グリホサートナトリウム塩（化管法第1種）・・・11.3% テトラピオン（化管法第1種）・・・16.7%	包装	10L×1
その他化管法該当成分	2-アミノエタノール（化管法1種）…1.7%		
性状	類白色細粒	有効年限	3年
毒性	普通物※	危険物	―

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量	希釈水量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数	テトラピオンを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	多年生雑草（スギナを除く）	雑草生育期	1.5～3.5 L/10a	100 L/10a	2回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3回以内	2回以内

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきること。
(2) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
(3) 展着剤の加用の必要はない。
(4) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、雑草の草丈が50～100cmの時に散布し、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
(5) 本剤は通常2～14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
(6) 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
(7) 散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布すること。
(8) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにすること。
(9) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意して使用すること。
(10) 散布器具、容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
(11) 散布液の調製に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製（ステンレスを除く） の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用後十分に水洗いすること。
(12) 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しないこと。
(13) 本剤の散布に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意すると共に、初めて使用するときは、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

⑴ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
⑵ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをすること。
⑶ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
⑷ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨ーーー

この登録に係る使用方法では該当がない。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項ーー

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

登録番号　第　10972　号

グラミン®S

特長：	●泡を抑えた展着剤です。 ●作物表面に均一に行き渡らせる作用を強化しています。

グラミンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル(化管法第1種)・・・15.0% ポリナフチルメタンスルホン酸ナトリウム・・・4.0% ポリオキシエチレン脂肪酸エステル・・・5.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	ブチルセロソルブ(化管法第1種)・・・19%		
性状	淡黄褐色透明液体	有効年限	5年
毒性	普通物※	危険物	－

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用作物と使用方法】

適用農薬名	作物名	使用量	使用方法
有機リン剤、カーバメート剤などの殺虫剤、殺ダニ剤、銅剤、硫黄剤、抗生物質剤などの殺菌剤	稲、麦、キャベツ等の薬液のつきにくい作物	1～3mL/散布液10㍑	添加
	はくさい、きゅうり、ばれいしょ、果樹等の薬液のつきやすい作物	0.5～1mL/散布液10㍑	

使用上の注意事項――

(1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
(2) 所定量の本剤を直接散布液に加え、十分かきまぜてから散布すること。あるいは本剤を加えた水で散布液を調製してもさしつかえない。
(3) 泡の消えにくい薬剤（ポリオキシン剤など）には多目に加えること。
(4) 本剤は自動車、壁などの塗装面に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないように注意すること。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法――――――――――――――――――――――――――――

誤飲などのないよう注意すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨――――――――――――――――――――――――――――――

水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨――――――――――――――――――

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項――

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。

2023年1月1日現在

ウッドスター®薬剤注入セット

特長：　●　ウッドスター®の薬剤ボトルに取り付けて薬剤の樹幹注入ができます

重 量	約180g	材 質	本体：グラスファイバー チューブ：LDPE ボタン：HDPE トップカバー：PC エンドキャップ：HDPE
収納時	約110cm		
伸張時	約260cm(3本振り出し)		
規格・包装	2.6m×1	竿 色	ホワイト

使用方法――

(1) 薬剤注入器の準備

肩掛け用ストラップの薬剤ボトルへの取付け

肩掛け用ストラップの中央にあるゴムリングを広げて薬剤ボトルに装着します。

※ゴムリングが確実に薬剤ボトルに取り付けられていることを確認してください。

② 薬液チューブ+吸入管の組立てと薬剤ボトルへの取り付け

i）吸入管のソケットを薬液チューブに挿入します。

ii）ボトルキャップを外し、吸入管を挿入します。

iii）吸入管のキャップ部分を締め、取り付け完了です。

※吸入管のキャップ(黒色)がきちんと締まっていることを確認してください。

※外したボトルキャップは、作業終了まで残しておいてください。薬液が残った場合に必要になります。

③薬剤注入器への薬液チューブ・注入ノズルの取り付け

i）注入器後部のソケットを薬液チューブに差し込みます。

ii）注入器先端に注入ノズルを回しながら取り付けます。

iii）注入ノズルの先端が下を向くように取り付けてください。

※薬液チューブ・注入ノズルが確実に取り付けられていることを確認してください。

(2) 薬剤注入前の準備

①薬剤注入器への薬液の吸い上げ

i）吸入管キャップを外し、注入ノズルが入れられるよう僅かに上げ、吸入管の先端が薬液に浸っていて薬液が吸入できる状態であるか確認の上、作業を開始してください。

ii）注入器をやや上向きにして注入先を薬剤ボトルに入れ、注入グリップを 5 ～ 10回程度ゆっくり握り、薬液をシリンダー

とチューブ内へ吸い上げてください。

※注入器の初期設定注入量は5.0(ml）に設定されていますが、そのまま吸い上げて構いません。

※薬液吸い上げは、注入ノズルから薬液が出ない程度でやめてください。

※エアー抜き作業はこの後の手順で行いますので、シリンダー、チューブ内にエアーが入っていても構いません。

②薬剤注入量の調整

注入量調整ウィンドに表示される数字を、注入量調整ダイヤルを回して調製して下さい。ダイヤルの目盛りは0.5刻みで表示できます。

③薬剤注入器内等のエアー抜き

i）吸入管キャップを外し、注入ノズルが入れられるよう僅かに上げ、吸入管の先端が薬液に浸っていて薬液が吸入できる状態であるか確認の上、作業を開始してください。

ii)注入器をやや上向きにして注入先を薬剤ボトルに入れ、注入グリップを3 ～ 4回程度連続して握り、シリンダーとチューブ内のエアーを抜いてから注入作業を開始してください。

※4ml設定の場合、直径2～5mm程度のエアーが1つ程度残る場合でも、注入液量に大きく影響するものではありません。

(3) 薬剤注入の処理手順

①処理樹への薬剤処理準備

i）注入孔の作成
・ドリルを使って、注入孔をあけます。
・孔径は、さくら10㎜、やぶつばき、プラタナス7㎜ とし、角度45°深さ6～7㎝程度の注入孔をあけます。
ii)注入孔へのマーカー設置
・注入孔を見失わない様、注入孔にマーカーを差し込みます。
②薬剤注入処理
i）注入孔マーカーを抜き、ノズルを注入孔底付近まで挿入し、注入グリップをゆっくり握り薬液を注入してください。
ii）注入後、注入グリップを握ったままノズルを引き抜き、薬剤注入器を水平にしてからグリップを緩めてください。
※注入グリップを急に強く握ると、注入孔からの薬液飛散の恐れがありますのでご注意ください。
※薬剤注入作業時、薬剤ボトルは水平に保ちながら作業を実施してください。薬剤ボトルが水平に保たれていないと、注入器へのエアーの混入等、注入作業に支障を来す場合があります。
(4) 薬剤処理後の作業手順
①薬剤が残っている場合（ 吸入管が薬液に浸っている場合)
i）吸入管を薬剤ボトルから外し、薬液面上まで引き上げ、注入ノズルを薬剤ボトルへ差し込んでください。
ii）注入グリップをゆっくり握り、シリンダーおよびチューブ内の薬液を抜き取り、薬剤ボトルに戻してください。
iii）薬剤ボトルをボトルキャップで密栓し、冷暗所に保管してください。
iv）有効期限内であれば次回の作業時に使用できます。
※ゴミ等を入れないよう注意して作業してください。注入器の詰まりの原因になります。
②薬剤を使い切った場合
i）継続して注入作業を行う場合
・(4)① i)～ii）の操作で、薬剤ボトルにシリンダー及びチューブ内の薬液を戻してください。
・使用を終えた薬剤ボトル内の薬液を新しい薬剤ボトルに移してください。
・その後、前記と同じように注入の準備します。
・新しい薬剤ボトルに吸入管を差し込む際には、薬剤ボトルから薬液が溢れださないことを確認しながら作業してください。
ii）注入作業が終わった場合
・構造上、薬剤ボトル内に薬液が余ります。上記と同様に、シリンダー及びチューブ内の薬液を薬剤ボトルに戻してください。
・残液は、有効期限内であれば次回の作業時に使用できます。薬剤ボトルをボトルキャップで密栓し、冷暗所に保管し、次処理作業時に使用してください。
・不要な場合、環境に影響がないよう適正に処分してください。
※使用後は薬剤注入器内に薬液が残らないようにして、保管してください。

使用上の注意――

(1)本薬剤注入器は、ウッドスター®専用です。また樹幹注入以外の用途へのご使用は避けてください。
(2)注入作業開始前の注入器内等のエアーをできる限り抜いてください。不十分な場合、薬剤注入量が正しい注入量にならない場合がありますので、注意してください。
4ml 設定の場合、直径2～5㎜程度のエアーが 1つ程度残る場合でも、注入液量へ大きく影響するものではありません。
(3)薬剤注入器および吸入管への薬液ホースの装着は、確実に実施し、薬液漏れがないことを確認した上で、注入作業を開始してください。
(4)薬剤注入作業時、薬剤は水平に保ちながら作業を実施してください。薬剤が水平に保たれていないと、注入器へのエアー混入等、注入作業に支障を来す場合があります。
(5)薬剤注入時、注入グリップは急に握らず、ゆっくり握り注入してください。注入グリップを急に強く握ると、注入孔からの薬液飛散の恐れがあります。
(6)注入作業終了後は注入器内の薬剤を確実に抜いてください。不十分な場合、残存薬剤による注入器の劣化等が想定されますので注意してください。
注入器内の水洗いはしないでください。シリンダー内の濁り（ 白化 ）が目立つようになった時が取り替え時期ですので、新しい注入器に取り替えてください。
(7)構造上、薬剤ボトル内に少量の薬剤が余りますので、環境に影響がないよう適正に処分するか、ボトルキャップで密封して保存すれば次回処理作業時に使用することも可能です。（ 有効年限内にご使用にください。

安全使用上の注意――

(1)蜂の巣駆除以外の目的には使用しないこと。
(2)絶対に人に向けて噴霧しないこと。
(3)竿が電線に触れないよう気をつけること。
(4)噴霧の前にはエアゾール缶の表示を必ず、よく読むこと。
(5)終了後にエアゾール缶の元のボタンをはめる場合は、のせるように軽くはめること。押すように強くはめると薬液が噴射するので注意すること。また、ボタンをはめるときは噴口を人や動物に向けないこと。
(6)終了後はエアゾール缶のボタンや竿のキャップが紛失していないか確認すること。また、薬液が竿のチューブに 残ることもあるので、竿はケースに入れて、小児の手の届かない所に保管すること。

2023年12月11日現在

生防協登録品

ハチダウン®

特長：	●スズメバチ駆除用エアゾールです。 ●効果が高く、スズメバチの巣の駆除に最適です。 ●ハチローFH®（スズメバチ駆除用スプレー竿）に接続して使用します。

ハチダウンは三井化学クロップ＆ライフソリューション(株)の登録商標です。

有効成分	d-T80-レスメトリン d-T80-フタルスリン	包装	730mL×6 730mL×12
その他化管法該当成分	－		
性状	無色透明液体	有効年限	－
毒性	普通物※	危険物	危険物第4類第3石油類 非水溶性液体

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

対象害虫・使用方法

対象害虫

スズメバチ、アシナガバチ

使用方法

(1) 本剤にハチローFH®（専用スプレー竿）の作動ボタンを接続して、直接ハチの巣に噴霧すること。
(2) 本剤の缶の総重量（キャップ込み）が300g以下になった時は、駆除中に薬液がなくなるおそれがありますので、予備を１缶用意すること。
(3) ハチの巣を除去する時は、噴霧後ハチが死んでいる事を確認してから行なうこと。
(4) 本剤を使用する時は、防護服を着用すること。

使用上の注意

(1) 本剤は巣にいるスズメバチやアシナガバチの駆除以外の目的には絶対に使用しないこと。
(2) 自動車、器具、家具、電気製品、楽器、美術品、壁などの塗装面、プラスチック、金属などを汚しますので十分注意し、直接噴霧液がかからないようにすること。
(3) 人やペット（犬、猫、小鳥など）には絶対に噴霧しないこと。
(4) 室内では使用しないこと。
(5) 飲食物、食器、玩具、寝具、衣類、飼料にかからないようにすること。
(6) 水槽や池などには散布液がかからないように十分注意すること。（魚毒）
(7) 庭木、花類、野菜などには使用しないこと。
(8) ミツバチに薬液がかかりますと死にますので、ミツバチ及び巣箱にはかからないようにすること。

安全使用上の注意

(1) 噴射した霧を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔など石けんでよく洗い、うがいをすること。
(2) 眼に入った場合は、直ちに水でよく洗い流すこと。
(3) 使用中に異常を感じた時は直ちに医師の手当を受けること。
(4) 病人、特異体質の人、妊娠、乳児などのいる場所では使用しないこと。
(5) 自動車のフロント、開けたままの自動車の荷台やトランク等の直射日光に当るところ、ガスレンジ、ストーブなどの暖房器具の近くには絶対に置かないこと。（破裂注意）

(6) 使用後の空缶は、必ず危険のない、火気のない戸外で、噴射音が聞こえなくなるまでボタンを押し、ガスを抜いてから不燃ごみとして捨てること。
(7) 散布液のかかったハチ(成虫、蛹、幼虫)は食べないこと。

貯蔵上の注意事項――

飲食物、食器類と区別し、火気や直射日光をさけて子供の手の届かない乾燥した冷暗所に保管すること。

2023年1月1日現在

生防協登録品

ハチローFH®

特長：	●	ハチダウン®(専用エアゾール)に接続して巣の中のハチを一気に撃退できます

重 量	約180g	材 質	本体：グラスファイバー チューブ：LDPE ボタン：HDPE トップカバー：PC エンドキャップ：HDPE
収納時	約110cm		
伸張時	約260cm(3本振り出し)		
規格・包装	2.6m×1	竿 色	ホワイト

使用方法

(1) マジックテープをはずし、チューブをのばす。
(2) 竿の先のトップカバーをとる。
(3) 竿をのばす。
(4) エアゾール缶のボタンをはずす。
(5) チューブの先端のボタンを確実にはめる。
(6) ボタンを押して、霧の出る方向を見てから散布にとりかかる。
(7) 噴霧終了後は2〜3秒してから竿のボタンをはずす。
(8) エアゾール缶の元のボタンを軽くはめる。

使用上の注意

(1) 必ず専用エアゾール（ハチダウン®）を使用すること。
(2) 噴霧の方向を確かめるなど使用直前に試し噴霧をするときは直接植物や動物、その他有用物に向かって噴霧しないこと。

安全使用上の注意

(1) 蜂の巣駆除以外の目的には使用しないこと。
(2) 絶対に人に向けて噴霧しないこと。
(3) 竿が電線に触れないよう気をつけること。
(4) 噴霧の前にはエアゾール缶の表示を必ず、よく読むこと。
(5) 終了後にエアゾール缶の元のボタンをはめる場合は、のせるように軽くはめること。押すように強くはめると薬液が噴射するので注意すること。また、ボタンをはめるときは噴口を人や動物に向けないこと。
(6) 終了後はエアゾール缶のボタンや竿のキャップが紛失していないか確認すること。また、薬液が竿のチューブに 残ることもあるので、竿はケースに入れて、小児の手の届かない所に保管すること。